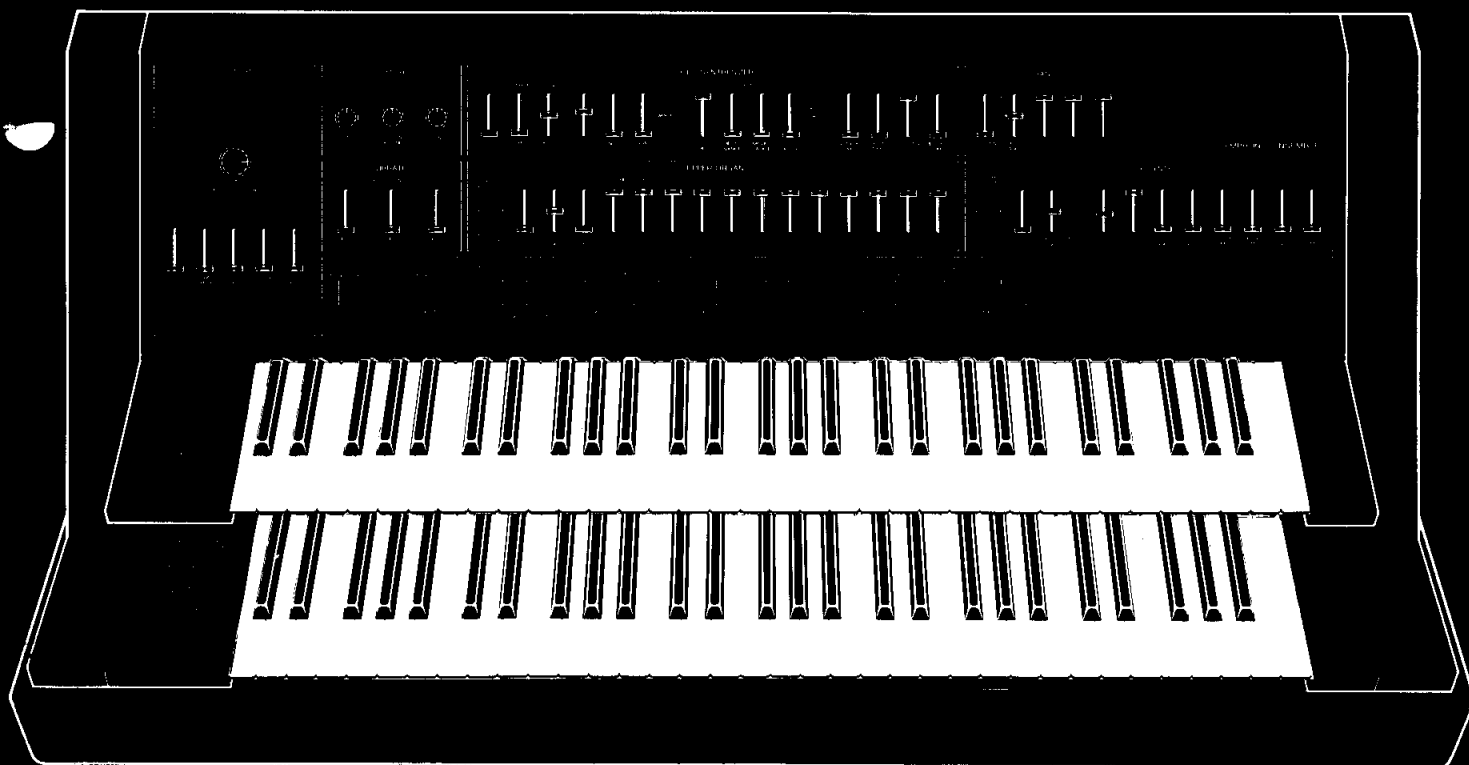


YAMAHA

SK50D

SYMPHONIC ENSEMBLE

取扱説明書



目次・ごあいさつ

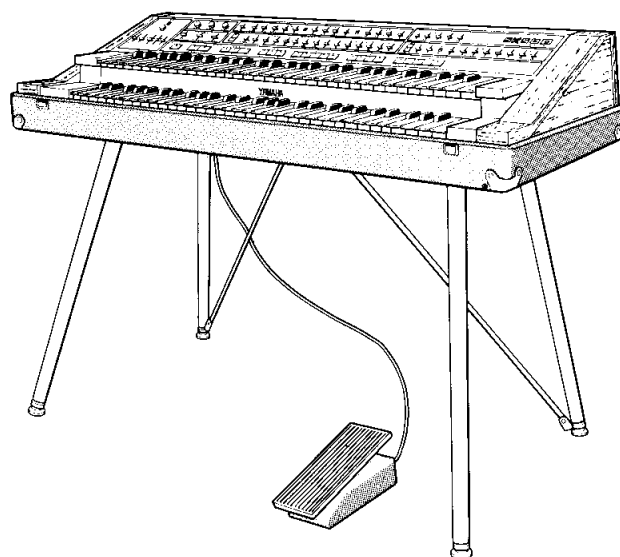
このたびはヤマハシンフォニックアンサンブル **SK50D** をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

SK50D はヤマハ独自の専用 LSI を採用した最新デジタル技術により多機能性をさらに向上させて、ライブステージにおけるキーボードの多様化に応えた61鍵、2段鍵盤の複合キーボードです。オルガン、ポリシンス、ストリングスのポリフォニックパートに加えて、タッチコントロールを備えたソロシンセサイザーパート、さらにペースペダル（オプション）によるベースパートと、ライブパフォーマンスを重視した設計になっています。

取扱説明書をよくお読みいただき、**SK50D** を正しく、末永くご愛用ください。

目次

	ページ
ご使用の前に / 次のことにご注意ください	2
SK50D の機能と構成	3
接続のしかた 基本接続	5
オプション機器の接続等	6
操作のしかた OUTPUT	7
PITCH	8
ORGAN	9
POLY-SYNTH	11
VIBRATO	13
BASS	14
SOLO SYNTHESIZER	15
TREMOLO / ENSEMBLE	20
ブロックダイヤグラム	21
SOUND MEMO	22
参考仕様	24
サービスについて	25



ご使用前に / 次のことにご注意ください

設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- 窓際など直射日光の当る場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- 湿気やホコリの多い場所、温度の特に低い場所

電源コードも大切

コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、必ずプラグをもって抜いてください。旅行などで長期間ご使用にならないときは、プラグをコンセントから外してください。

外装のお手入れは

お手入れのとき、外装をベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布したりすることは避けてください。お手入れは必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

接続は充分注意して

5、6ページの接続のしかたをよく読み正しく接続してください。誤った接続をすると本機や接続した機器の故障の原因となることがあります。ご注意ください。

落雷に対する注意を

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜きとってください。

■この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

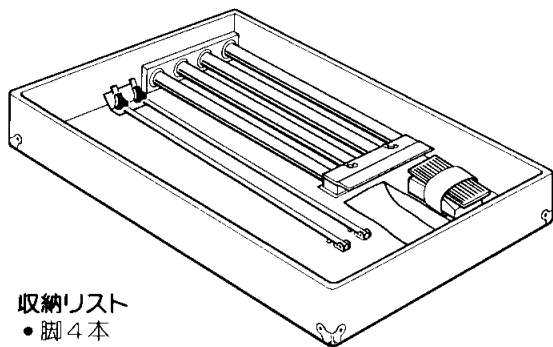
他の電気機器への影響について

SK50D はデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時にご使用になりますと、雑音や誤動作の原因となることがあります。ラジオやテレビなどの電気機器から充分離してご使用ください。

組み立て

本体上ケースの中には脚4本及びステー2本が図の様に納められています。脚の取り付けはつぎの様にを行います。

1. 脚、ステーを上ケースから取り出したのち、いったん上ケースを取り付けてから閉めてください。
2. リア部を下にして本体を立ててください。この状態で脚を下図のように取り付けます。

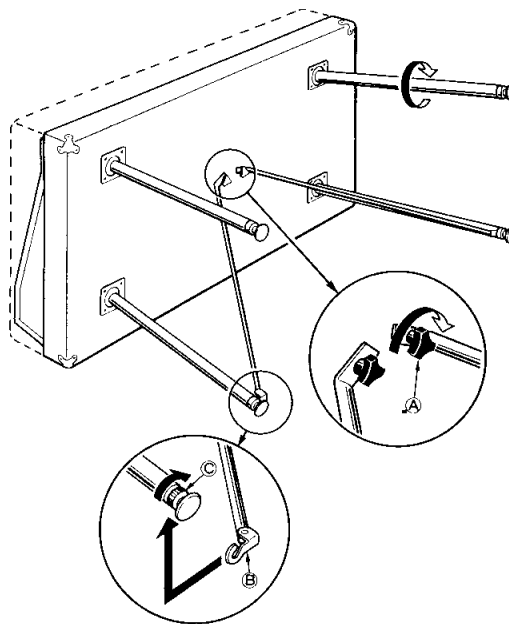


収納リスト

- 脚 4本
- ステー 2本
- フットコントローラー (FC-3A)
- 電源コード

3. 下図のようにリア側の脚にステーを取り付けます。

- ステーの本体側をネジ④により仮締めする。
- 脚のリング③をゆるめてフック②を脚と調整リングとの間にかけて、調整リング③を締めます。
- 最後にステーの本体側のネジ④を締めつけます。



SK50D の機能と構成

SK50D はアッパー及びローオルガン、ポリシンズ、ストリングス、ベースさらにソロシンセサイザーの六つの異なるパートから構成されています。これらは一つ一つ独立したキーボードとして演奏できるほか、ワンタッチで切り換えたり、いくつかのパートを組み合わせたアンサンブル演奏などさまざまなキーボード演奏ができます。

KEYBOARD / 音域と機能

SK50D は上下鍵盤とも61鍵5オクターブ (C₁~C₆) の音域をカバーします。このうち上鍵盤は、5オクターブの全域がアッパーオルガンパートに、SOLO で示される C₃~C₆ の高音域3オクターブがソロシンセサイザーのノーマルモードに割当てられています。下鍵盤は通常モードでローオルガン、ポリシンズ、ストリングスに5オクターブ全てが割当てられますが、マニュアルベースモードでは低音域の19鍵 1½オクターブ (C₁~F₂#) がベースパート及びソロシンセサイザーのベースモードの発音域となり、ポリシンズ、ストリングスは42鍵 3½オクターブ (G₂~C₆) の範囲に変わります。

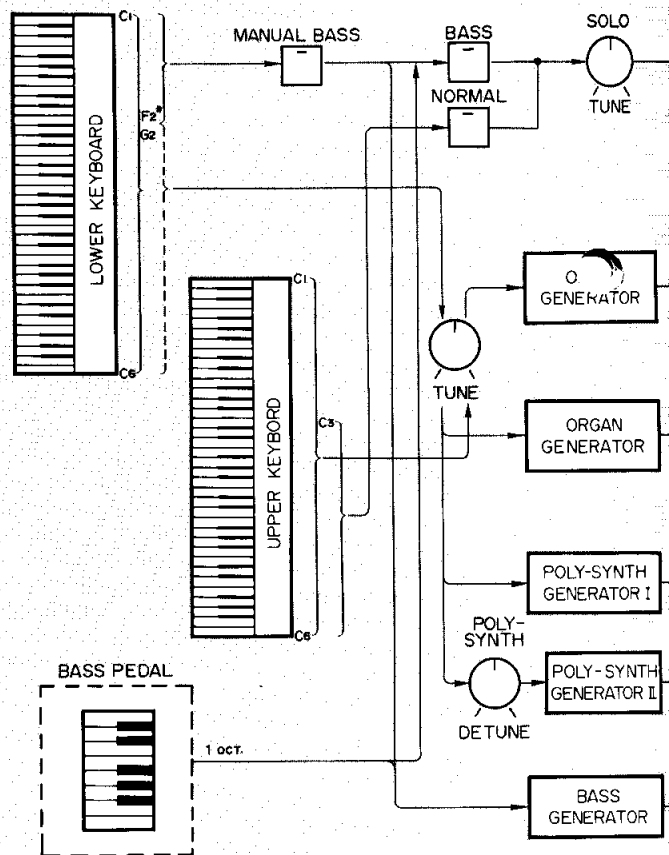
各パートの発音数はベース、ソロシンセサイザーパートが高音優先の単音出力でオルガン、ポリシンズ、ストリングスは上下の鍵盤で、それぞれ同時に7音(合計14音)までのポリフィニッシュ演奏ができます。

REAR PANEL

リアパネルは MIXED 出力のほか各パートの splitted 出力があり、ミキサーなどへの出力の配慮がされています。また、フットコントローラー、フットスイッチの接続端子が各種備えられており、リアルタイムな演奏性の向上がはかられています。特にベースペダル(オプション)を接続する PEDALS 端子を備え、ベースパート及びソロシンセサイザーのベースモードによりペダル演奏が可能になっています。

ORGAN (UPPER / LOWER)

上鍵盤で演奏するアッパーオルガン、下鍵盤で演奏するローオルガンのパートがあります。アッパーオルガンは3種類のプリセット音とトーンレバーにより音色を自由にコントロールすることのできるマニュアルモードがあります。さらにアッパーオルガンの場合、3種類のプリセット音もパネル部の DECAY, SUSTAIN, PERCUSSIVE などのコントロールにより減衰音を作ったりするなど特徴ある音づくりができます。ローオルガンパートは2種類のプリセット音をローオルガンセレクトで選ぶことができます。



POLY-SYNTH & STRING

オルガン、ポリシンズ（ストリングス）はともに7音までのポリフォニック演奏ができますが、音のつくられるプロセスの違いにより音色に本質的な違いがあります。オルガンの音はドローバー式のトーンレバーにより倍音を加えて音色づくりをするため、倍音の割合や構成を自由に設定してさまざまな音色をつくることができますが、鍵盤を押している間の音色は一定です。これに対してポリシンズ（ストリングス）パートの音色は多くの倍音を持つ特殊な波形を、フィルターを通して倍音の一部を取り除くことによりつくり出します。このとき、フィルターの特性をADSR（エンベロープ）でコントロールすることができるため、キーを押してから消えるまでの音色を変化させることができます。

SOLO SYNTHESIZER

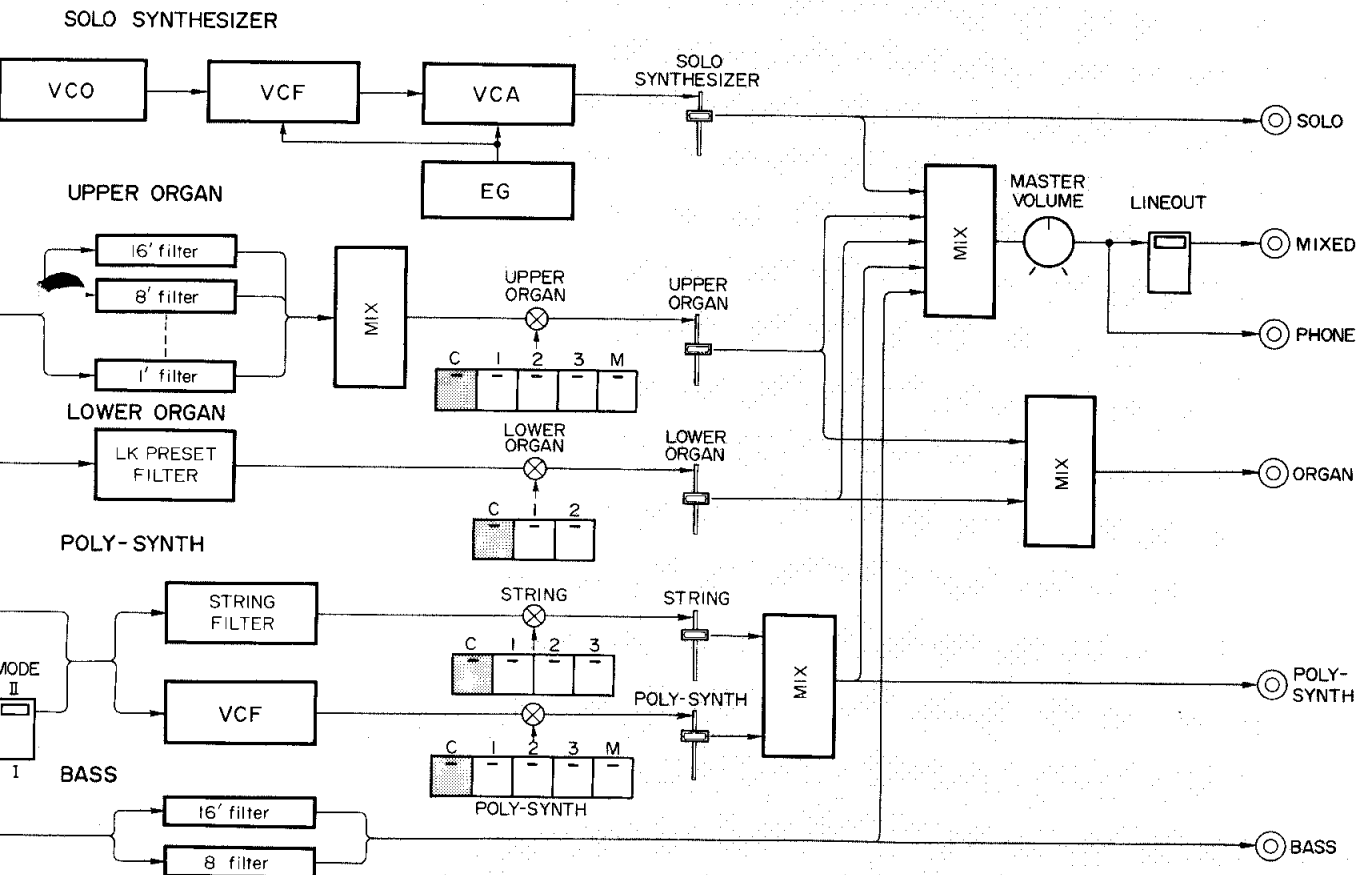
ソロシンセサイザーは、音色だけでなく、音程や音量にも時間的な変化をつけ、独特のサウンドを自在につくり出すことができます。ソロシンセサイザーは、音の性格を特徴づける音程、音色、音量の三つの要素をVCO,VCF,

VCA(EG)と呼ばれるブロックで制御します。これらのブロックは全て電圧によって制御されるため、時間的な変化をつけることが容易です。これがソロ（単音、高音優先）シンセサイザーの大きな特徴です。

BASS

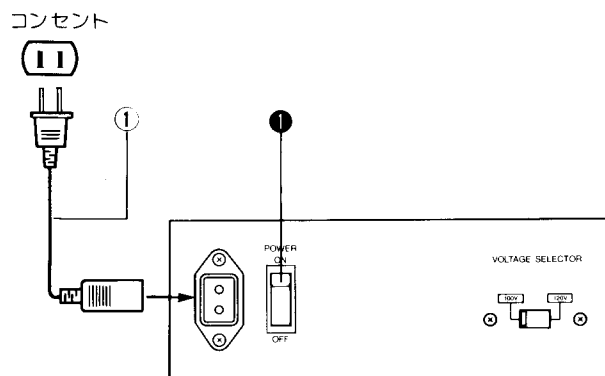
ベースパートはオルガンタイプの音色フィルターを使用し、高音優先の単音演奏ができます。ベースパートの音源は、下鍵盤の低音域のマニュアルベース発音域、または（および）ベースペダル（オプション）を演奏することにより作られます。

SK50Dは特徴の異なるオルガン、ポリシンズ、ストリングス、ソロシンセサイザー及びベースの各パートで構成された複合キーボードです。それぞれのパートの特徴、相違を考え、操作し演奏することがSK50Dを活かすこととなります。



SK50Dにはパワーアンプは内蔵されていません。このため、ヘッドホンだけを使用するときを除き、キーボードアンプなどのパワーアンプ、スピーカーを使用することが必要です。

■電源の接続

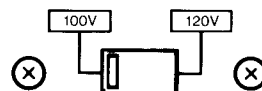


①電源コード

プラグをAC100Vのコンセントに差し込みます。

- **VOLTAGE SELECTOR 電圧切り換えスイッチ**
電圧切り換えスイッチは工場出荷時にAC100Vにセットされています。スイッチが⊗のようになっていることを確認し、スイッチには触れないでください。

VOLTAGE SELECTOR



■アンプ/スピーカーの接続

OUTPUT ブロック

出力レベルは-10dBm/600Ωで一般的なキーボードアンプの入力レベルに適合します。

②MIXED ミックス出力

一系統（またはモノラル）のアンプ、スピーカーをご使用になるときに接続する端子です。オルガン、ポリシンセ、ソロシンセサイザー及びベースのミックスされた音出力され、パネルのOUTPUT部のMASTERボリュームにより全体の音量をコントロールすることができます。

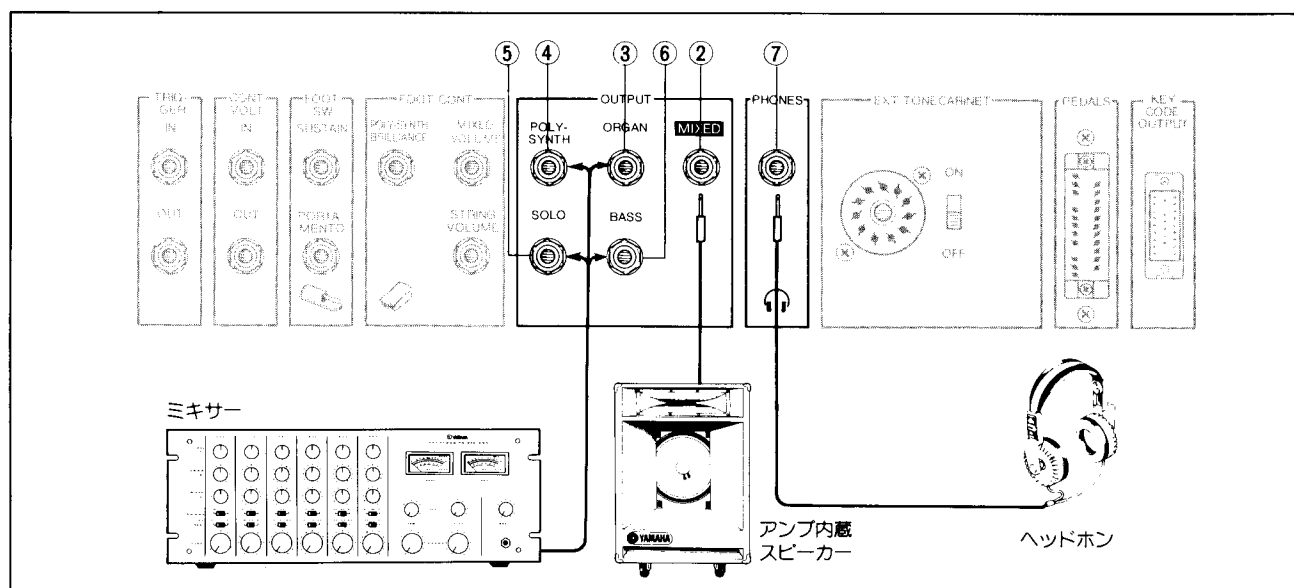
③,④,⑤,⑥ スプリット出力

ミキサーや多系統のアンプ、スピーカーを使用するときの出力端子です。オルガン、ポリシンセ（ストリングス）、ソロシンセサイザー及びベースの出力をそれぞれ別々に出力することができます。

これらの出力は **MASTER** ボリュームによっては変化せず、それぞれの音量レバーによって変化します。

⑦PHONES ヘッドホン出力

ヘッドホンを接続します。**MIXED** 出力と同じミックスされた音が出力されます。



オプション端子としてベースペダル (BP2)、フットコントローラーなど (FC-3A,4) の接続端子および他のヤマハシンセサイザーとデータの受け渡しをする入出力端子があり、SK50Dの演奏性をより向上、拡大することができます。

■オプション端子の接続

⑧ KEY CODE キーコード出力端子

鍵盤の音程を示すコードデータを、KEY CODE 入力端子を持つ楽器に出力する端子です。

⑨ PEDALS ベースペダル接続端子

ベース演奏をするためのベースペダル (BP2) を接続する端子です。

⑩ EXT TONECABINET トーンキャビネット接続端子

レスリースピーカー (モデル#715, #815など) を接続する11p端子と出力スイッチです。この端子にレスリースピーカーを接続すると、SK50Dのハネル操作でレスリースピーカーのトレモロのON/OFF及びスピードをコントロールすることができます。詳しくは TREMOLO/ENSEMBLE の頁をご参照ください。

- レスリースピーカーを使用せず、SK50Dのトレモロを使用するときはこのスイッチをOFFにしてください。

FOOT CONT フットコントローラー接続端子

⑪ MIXED VOLUME

フットコントローラーを接続し、ミックスド出力端子の音量をコントロールすることができます。

⑫ STRING VOLUME

ストリングスの音量だけを単独にコントロールすることができます。

⑬ POLY-SYNTH BRILLIANCE

ポリシンズのブリリアンス (音色) がコントロールで

きます。

FOOT SW フットスイッチ接続端子

⑭ SUSTAIN

フットスイッチを接続してオルガン及びポリシンズのサステーン効果のON/OFFができます。

- フットスイッチによるサステーンの働きはパネルのSUSTAINスイッチ⑩、⑫と同じです。フットスイッチを使用してサステーンのON/OFFを行なうときはパネルのSUSTAINスイッチはONにしておきます。なお、サステーンの長さはSUSTAINレバー⑪、⑫のセッティングにより決まります。

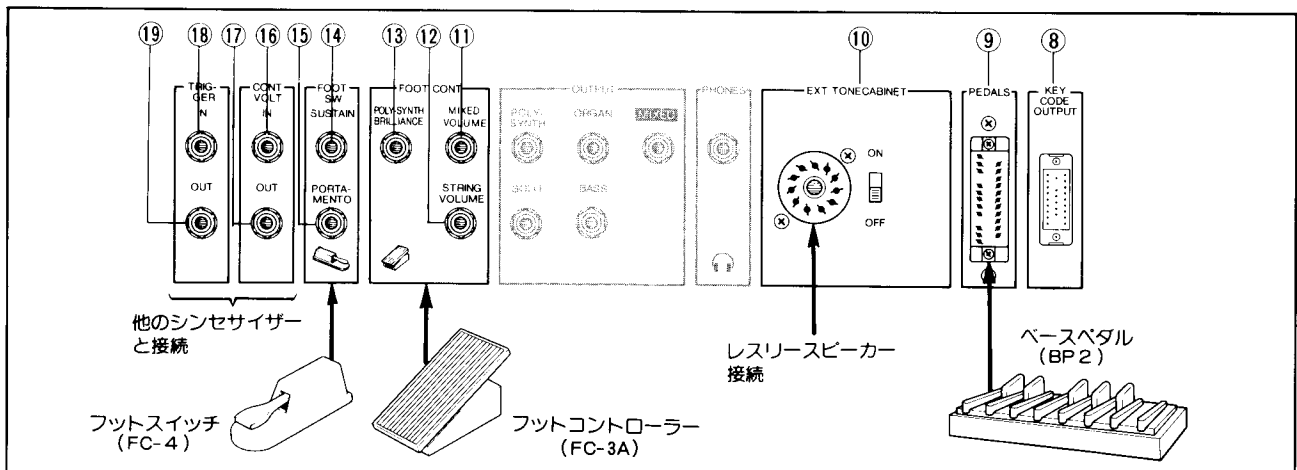
⑮ PORTAMENTO ポルタメント

ソロシンセサイザーのホルタメント効果のON/OFFができます。ホルタメントの長さは、PORTAMENTOレバー⑮で調節します。PORTAMENTOレバーがS側いっぱいのはときは、フットスイッチをONしてもホルタメント効果は得られません。

⑯, ⑰ CONTROL VOLT IN/OUT

⑱, ⑲ TRIGGER IN/OUT

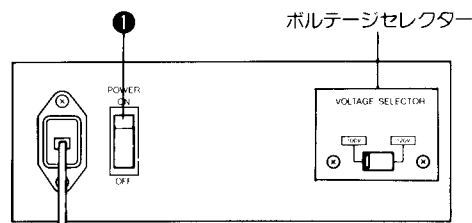
これらの端子はSK50Dのソロシンセサイザーブロックと、同様の端子を持つヤマハシンセサイザーCSシリーズとの間でVCO, VCF, VCA (EG)をコントロールする制御電圧及び鍵盤のON/OFFを示すトリガー信号の受け渡しをするための入出力端子です。詳しくは接続するシンセサイザーの取扱説明書をご参照ください。



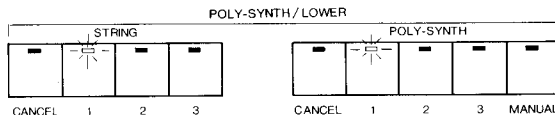
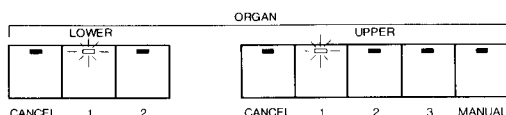
接続が終わったら、もう一度誤りがないかどうかチェックしてください。誤った接続のまま通電すると **SK50D** や接続した **パワーアンプ**、**スピーカー** などの故障の原因となることがあります。次にブロックごとに説明していきます。**MIXED** 出力端子に **パワーアンプ**、**スピーカー** を接続し、実際に音を出して各コントロールの働きを確かめてください。

① POWER 電源スイッチ

電源スイッチは背面の電源コードのとなりにあります。このスイッチの上側を押すと電源が入り、プリセットトーン **UPPER ORGAN 1**、**LOWER ORGAN 1**、**STRING 1** 及び **POLY-SYNTH 1** が自動的にセットされ、そのインジケーターが点灯します。



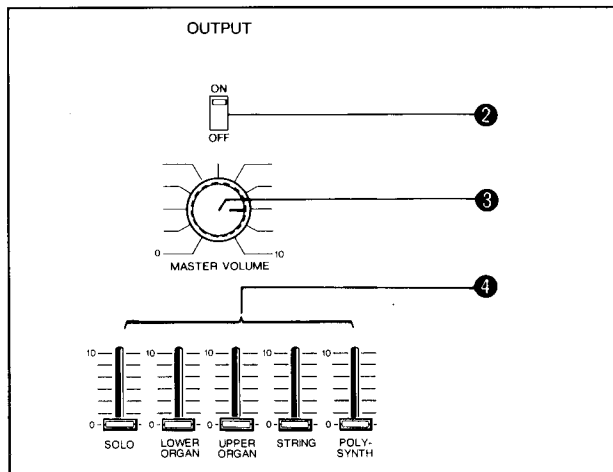
●電圧切り換えスイッチは、図に示すように **100V** にセッティングされています。スイッチには触れないようにしてください。



電源 ON で自動的にセッティングされる

OUTPUT ブロック

この状態で **OUTPUT** ブロックをコントロールすると、オルガン、ポリシンセ及びストリングスのプリセット音を演奏することができます。ソロシンセサイザーパートは演奏に先だち各コントロールのセッティングが必要です。



② LINE OUT ラインアウトスイッチ

MIXED、**EXT TONECABINET** 端子の出力を **ON / OFF** します。スプリット出力及びヘッドホンはスイッチの **ON / OFF** と無関係に出力されます。

③ MASTER VOLUME マスターボリューム

MIXED 出力、ヘッドホンの音量をこのボリュームで調節します。

●**EXT TONECABINET** 端子に出力する音量も、マスターボリュームにより調節します。

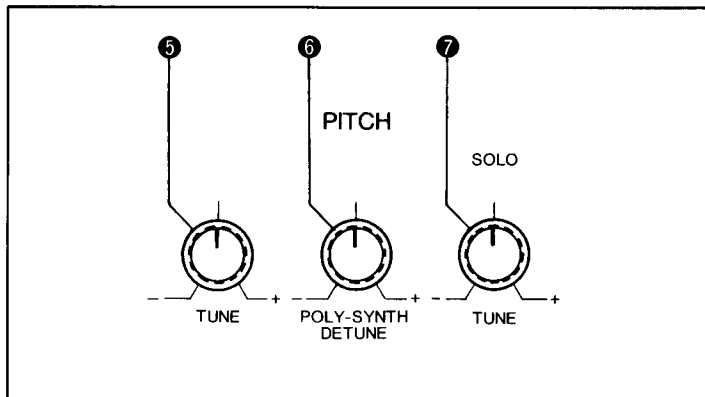
④ SOLO, ORGAN (UPPER & LOWER), STRING & POLY-SYNTH スプリットボリューム

ソロシンセサイザー、オルガン、ストリングス及びポリシンセパートのレベルをそれぞれ独立してコントロールできます。それぞれの音量の割合をこれらのレバーで調節します。

スプリットボリュームを上げると、初期設定によりインジケーターの点灯している **UPPER ORGAN 1**、**LOWER ORGAN 1**、**STRING 1**、及び **POLY-SYNTH 1** のプリセット音を演奏することができます。これらのスイッチを押せば他のプリセット音も演奏することができます。**CANCEL** を押し、スプリットボリュームを上げても音は出力されません。

●ソロシンセサイザーパートは各コントロールを次頁の「基本セッティング」のとおりでセットすると、音を出して演奏することができます。

各パートのピッチを合わせるチューニングブロックです。



⑤ TUNE チューン

オルガン、ポリシンセ(ストリングス)及びベースパートの基本ピッチを合わせます。

●デチューン(ハーモニー)効果はポリシンセ(ストリングス)パートだけを単独で演奏したときにもつくることができます。

⑥ POLY-SYNTH DETUNE デチューン

ポリシンセ(ストリングス)パートのデチューンつまみです。ポリシンセ(ストリングス)パートでデチューン(ハーモニー)をつくる時に使用します。

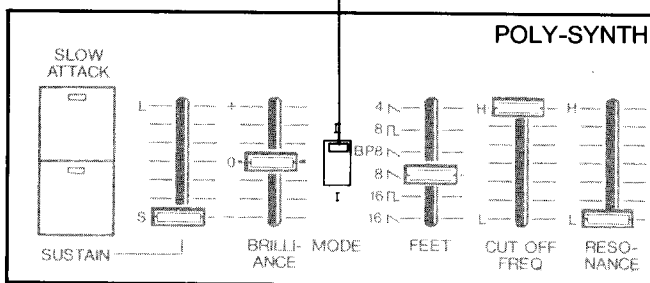
⑦ SOLO TUNE

ソロシンセサイザーパートのピッチを合わせます。TUNEつまみ⑤ではソロシンセサイザーパートのピッチは変化しません。

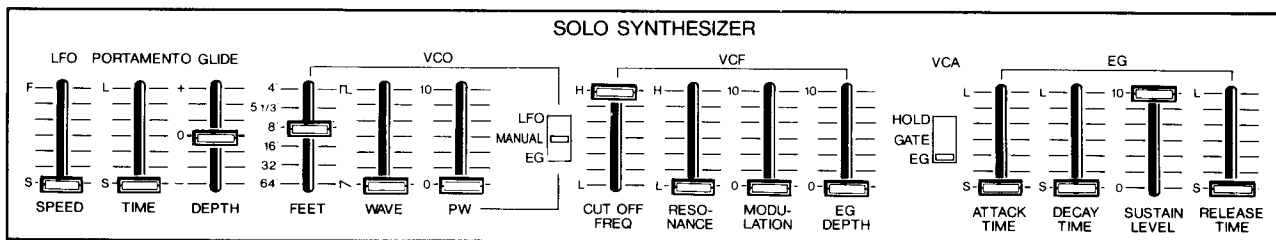
●POLY-SYNTH DETUNEつまみは、POLY-SYNTHパートのMODEスイッチがII側のとき働き、I側にしたときは動作しません。

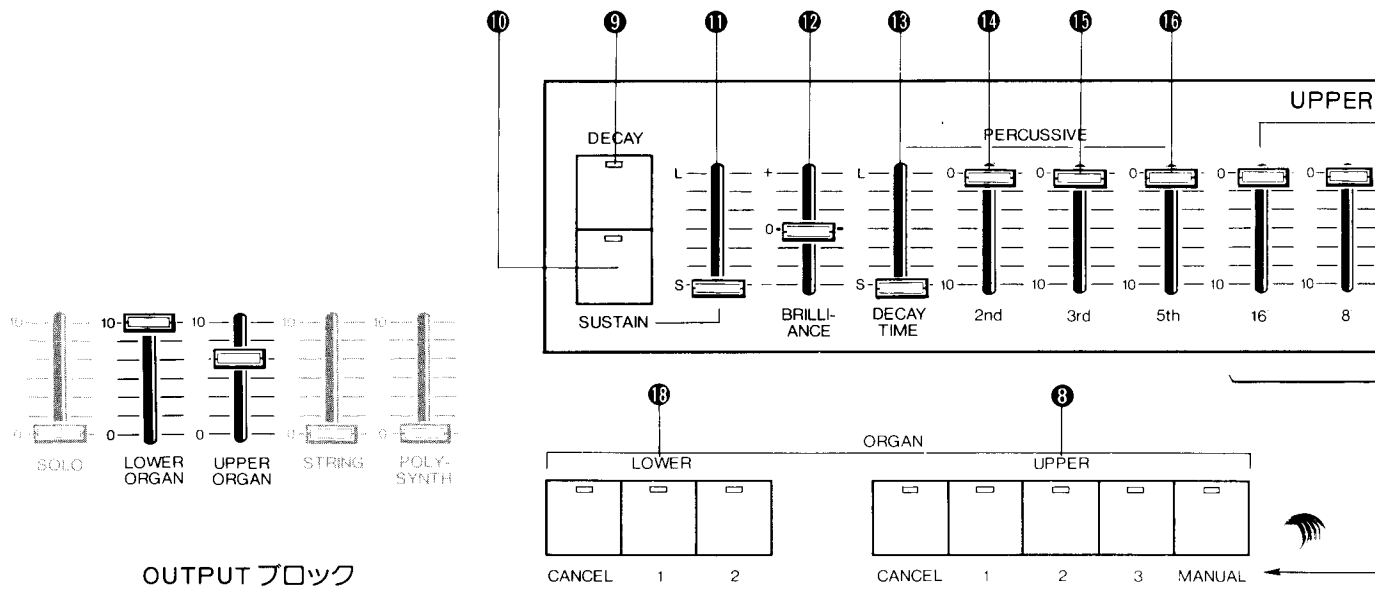
●ソロシンセサイザーはMODEスイッチのNORMALボタンを押し、パネルのコントロールを下図「基本セッティング」のとおりセットすると音を出すことができます。

モードスイッチ



ソロシンセサイザー基本セッティング





オルガンには上鍵盤で演奏するアッパーオルガンと下鍵盤で演奏するロワーオルガンがあります。このうち、ロワーオルガンは、LOWER ORGAN セレクタースイッチで選ぶことのできる2種類のプリセット音があり、アッパーオルガンは、ORGAN セレクターで3種類のプリセット音を選ぶほかトーンレバーにより音色を自由にコントロールできるマニュアルモードがあります。またアッパーオルガン部分はロワーオルガン部分と異なり、プリセット音を含めてDECAY, SUSTAIN, PURCUSSIVEなどのコントロールが可能です。

■UPPER ORGAN

アッパーオルガン部分はパネルのUPPER ORGAN部と係り、DECAY スイッチ⑨～5thレバー⑩までの各コントロールはMANUAL音だけでなく、プリセット音に対しても働きます。電源スイッチON時はUPPER ORGAN 1に初期設定されます。

⑧UPPER ORGAN セレクトスイッチ

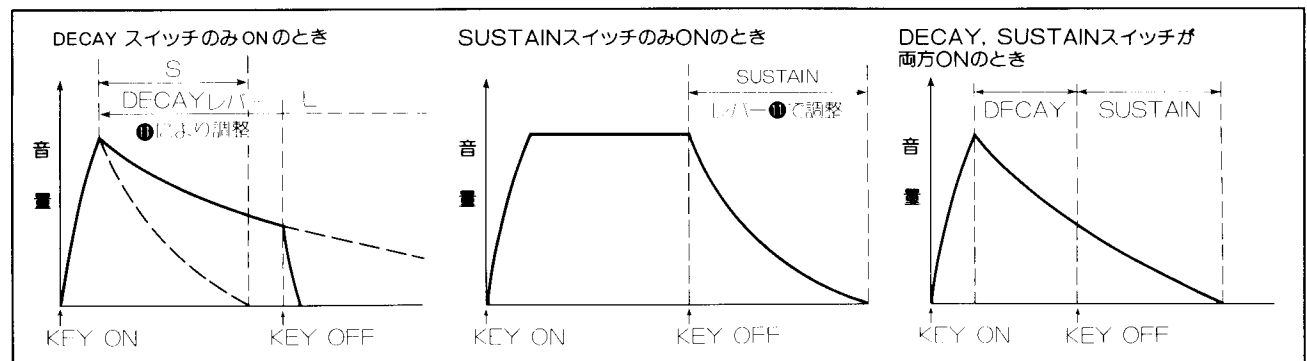
オルガンの音色を選ぶスイッチです。ORGAN 1～3はプリセット音で、パネルのトーンレバーで音色をつくる時はMANUALを押します。CANCELを押すとオルガンの音は全て遮断されます。

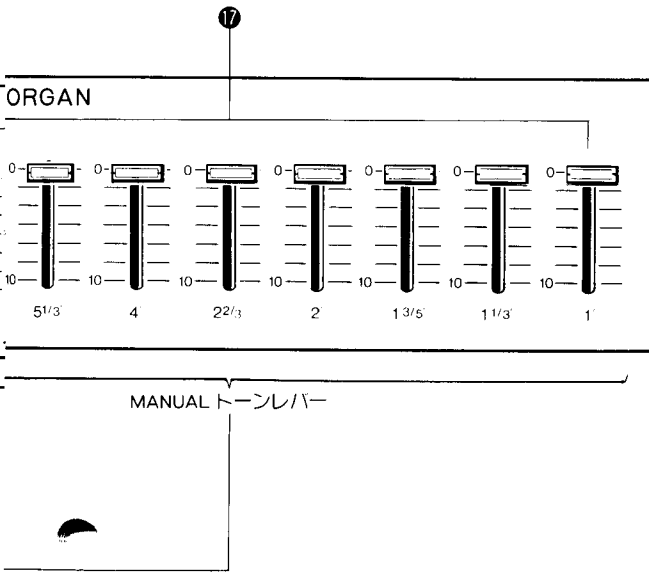
⑨DECAY テイクスイッチ

DECAY スイッチを押してONにすると、打楽器のような減衰音になります。音量は打鍵直後に最大になり、その後音量は鍵盤を押している間、徐々に小さくなります。減衰中に鍵盤を離すと音は消えます。減衰のしかたはレバー⑪によりコントロールします。スイッチをもう一度押すとOFFになります。

⑩SUSTAIN サスティーンスイッチ

SUSTAIN スイッチを押してONにすると、離鍵後、音量が徐々に小さくなるサスティーン音になります。





余韻の長さはレバー⑪でコントロールします。
スイッチをもう一度押すと OFF になります。

●DECAY スイッチ⑨と SUSTAIN スイッチ⑩を両方 ON にした場合、打鍵後、離鍵にかかわらず音量は減衰しつづけます。

⑪ DECAY, SUSTAIN テイクイ, サスティーンレバー
DECAY および SUSTAIN の長さをコントロールするレバーです。レバーを L 側に上げるほど DECAY, SUSTAIN の時間が長くなり、ゆるやかな減衰音および余韻が得られます。

●DECAY, SUSTAIN スイッチが OFF のときこのレバーは動作しません。

⑫ BRILLIANCE ブリリアンスレバー

音色を調節します。レバーを + 側にするほど音色は明るくなり、- 側にするとソフトな音色になります。

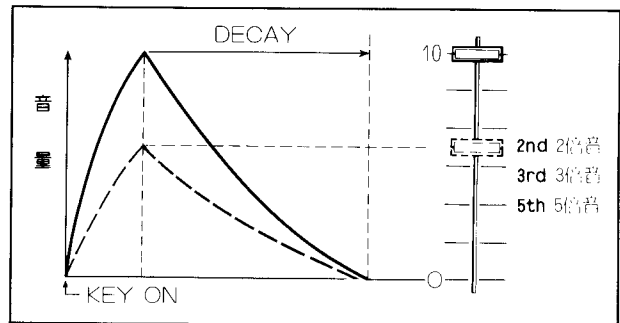
●ふつうは 0 (中央: クリックストップ位置) にしておき、曲のふん囲気や好みにより音色を一時的に明るくしたいときやソフトにしたいときなどに使用すると便利です。

PERCUSSIVE パーカッシブ

⑬ DECAY TIME, ⑭, ⑮, ⑯ 2nd, 3rd, 5th

音の出始めの音色を強調してパーカッシブな音をつくります。2nd (2倍音) ⑭, 3rd (3倍音) ⑮ 及び、5th (5倍音) ⑯ のレバーを 10 方向、下側にすると打鍵時にこれらの倍音が付加され、音の出始めの音色を特徴づけることができます。DECAY TIME レバー⑬ を L 側にするほどパーカッシブ効果はゆるやかになります。

●鍵盤がすでに押されており、パーカッシブ効果が終わったあとでは次に押した音程にはパーカッシブ効果はありません。



⑰ トーンレバー (16' ~ 1')

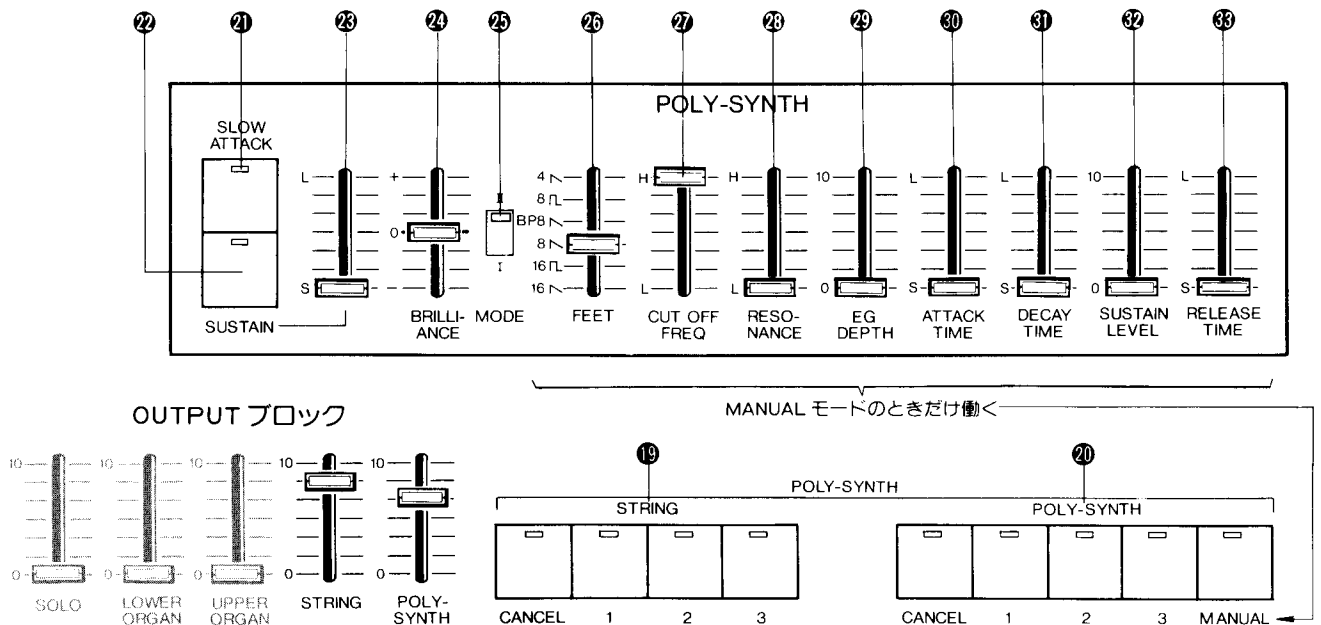
ORGAN スイッチで MANUAL を選んだときだけこれらのレバーで音色をつくることができます。一般的に楽器の音色は、音程を決める基音に対して倍音がどう含まれているかで決まりますが、トーンレバーは音色を決める倍音を付加していくことにより音色づくりを行うものです。16' から 1' になるほどより高次の倍音をコントロールすることができます。

■ LOWER ORGAN

ローオルガンパートは LOWER ORGAN スイッチにより 2 種類のプリセット音を選び演奏することができます。電源スイッチ ON 時は LOWER ORGAN 1 に初期設定されます。

⑱ LOWER ORGAN セレクトスイッチ

プリセット音を選ぶスイッチです。CANCEL を押すとローオルガンの音は遮断されます。



ポリシンパートはプリセットされた音色の **POLY-SYNTH 1, 2** 及び **3** とマニュアル操作により音色のエンベロープをコントロールできる **MANUAL** がありスイッチで選択することができます。ストリングスにはプリセットされた音色の **STRING 1, 2** 及び **3** があり同様にスイッチで選べます。ポリシンとストリングスはともに下鍵盤61鍵5オクターブ (C₁~C₆) で演奏します。ただし、**MANUAL BASS** スイッチ⑦を ON したとき発音域はマニュアルベース音域を除く、42鍵3½オクターブ (G₂~C₆) に変わります。ポリシンとストリングスは異なった音色として独自に出力されますが、音源が共通であるためポリシンパートのコントロールパネルは一部共通しています。

①9 STRING ストリングスセレクトスイッチ

音域の異なるストリングス系の音色が3種類プリセットされています。電源スイッチ ON 時は **STRING 1** に初期設定されます。**CANCEL** を押すとストリングスの音は遮断されます。

- リアパネルの **FOOT CONT** 部の **STRING** 端子にフットコントローラーを接続するとストリングスの音量だけをコントロールすることができます。これにより、ストリングスサウンドのフェードイン、フェードアウトが可能になり、効果的な演奏ができます。

②0 POLY-SYNTH ポリシンセレクトスイッチ

音色のエンベロープがプリセットされた **POLY-SYNTH 1~3** と、音色のエンベロープをパネル上でセッティングできる **MANUAL** とを選択します。電源スイッチ ON 時は **POLY-SYNTH 1** に初期設定され、**CANCEL** を押すとポリシンの音は遮断され一切出力されません。

- ストリングスセレクトスイッチ①9、ポリシンセレクトスイッチ②0の **CANCEL** を ON にすると、スプリットボリュームが上っていても音は出力されませ

ん。ボリュームをセットしたまま各パートの出力を一時的に OFF したいときに便利です。

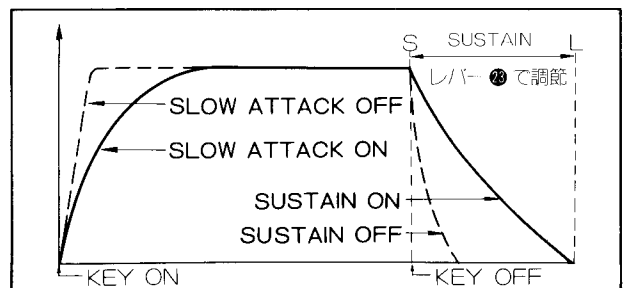
②1 SLOW ATTACK スローアタックスイッチ

SLOW ATTACK スイッチを ON にすると、鍵盤を押してから音の立上りがゆるやかになります。

- スローアタックは **SUSTAIN** レバー②3とは関係なく、ゆるやかな立上りが得られます。

②2, ②3 SUSTAIN サスティーンスイッチ, レバー

SUSTAIN スイッチ②2を ON にすると、サスティーン音が得られ、音量は離鍵後ゆるやかに小さくなります。余韻の長さは **SUSTAIN** レバー②3でコントロールします。



24 BRILLIANCE レバー

音色を調節します。ストリングス及びポリシンスの全てに対して働き、+側にすると音色が明るくなり、-側にするとソフトな音色になります。

25 MODE モードスイッチ

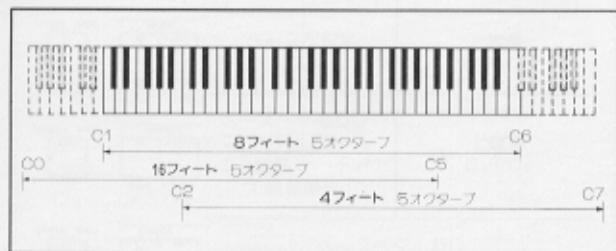
音源を切り換えるスイッチです。ポリシンスパートはピッチの調律系列の異なる2回路の音源があります。モードIIを選ぶと二つの音源を同時に使用します。この結果、PITCHブロックのTUNE及びDETUNEツマミにより変化する2つの音程を共振するため、ハーモニー効果のある音をつくることができます。モードIを選ぶと、TUNEのツマミにだけ依存する音源回路が選ばれます。このため、DETUNEツマミによるハーモニー効果はありません。

- SLOW ATTACK 21, SUSTAIN 22, SUSTAIN レバー 23, BRILLIANCE レバー 24 及び MODE スイッチ 25 は、ストリングス及びポリシンス (プリセット音を含む) に対して同様に働きます。

FEET レバー 26 から右側にあるレバー 27 ~ 33 は全て、POLY-SYNTH スイッチで MANUAL を選んだときだけ動作します。これらのレバーの設定位置によっては MANUAL スイッチを押しても音が出ないことがあります。あらかじめ左図のようにセットし、MANUAL スイッチを ON してください。

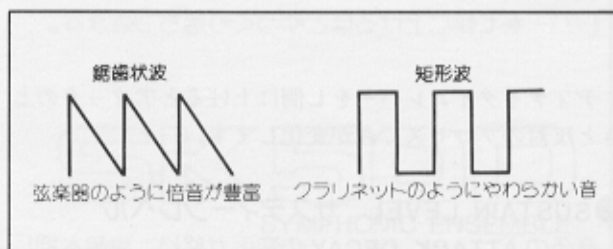
26 FEET フィートスイッチ

音源とする音域、波形及びフィルター形式を選びます。8' のとき標準的な音域 C₁ ~ C₆ の 5 オクターブの音域をカバーし、16' にすると 1 オクターブ音域が下り、反対に 4' にすると 1 オクターブ上ります。

**● 波形について**

音源の波形は鋸歯状波(ノ)と矩形波(ル)とがあります。鋸歯状波は整数倍の倍音を持つ波形で、弦楽器など一般的な楽器音の音源として使用します。矩

形波は奇数倍の倍音を持ち、クラリネットなど閉管楽器の音色とよく似ています。

**27 CUT OFF FREQ カットオフ周波数**

マニュアルの基本となる音色をコントロールするレバーです。このレバーをH側からL側に下げるほど高次の倍音がカットされ、音色はまるく、ソフトになります。L側いっぱいになると基音までカットして音がなくなることがあります。

28 RESONANCE レゾナンス

レバーをH側に上げるとカットオフ周波数付近の倍音が強調され、張り、艶のある音色にすることができます。

29のEG DEPTH から 33 RELEASE TIME までのレバーは音が始まってから音が消えるまでの音色に時間的な変化を与えるエンベロープジェネレーターのコントロールです。エンベロープジェネレーターの動作を確認するために、CUT OFF FREQ レバー 27 を中央位置まで下げてください。

29 EG DEPTH EG デプス

このレバーは右側の4つのレバーで設定したエンベロープがカットオフ周波数を変化させる割合を調節します。このレバーを0から10方向にするほど変化が大きくなります。

鍵盤を押しても、エンベロープのレバーがセットされていないので音色の変化は現われません。このレバーは上側いっぱいにして次に進んでください。

30 ATTACK TIME アタックタイム

鍵盤を押して音が出はじめてから、音色が最大変化に達するまでの時間を調節するレバーです。レバーをL側に上げるほどゆつくりと立上ります。

このことを確認するために、このレバーをL側に上げ、キーを押してみてください。

① DECADE TIME ディケイタイム

最大変化から、持続時の音色に落ちつくまでの時間を調節するレバーです。

レバーをL側に上げるほどゆっくり落ちつきます。

ディケイタイムレバーをL側に上げるとアタックのときと反対のプロセスで音が変わります。

② SUSTAIN LEVEL サスティーンレベル

音色の ATTACK, DECAY の変化が終り、鍵盤を押している間持続するときの音色を調節するレバーです。

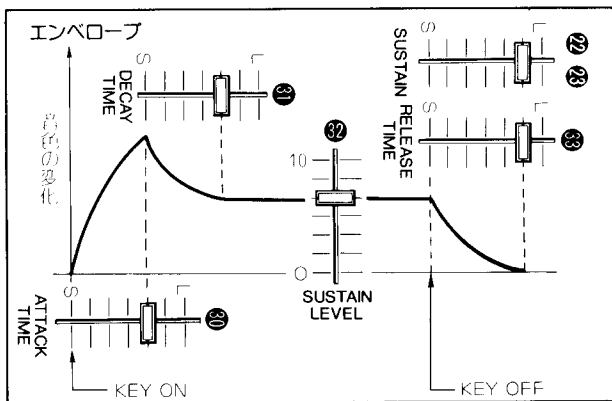
SUSTAIN LEVELのレバーを10側に上げ、キーを押すと、レバーの位置によって音色が変化します。このときの音色の変化は、このレバーを0側にしておき、CUT OFF FREQレバー⑦を上下したときと同じになります。

③ RELEASE TIME リリースタイム

鍵盤を離してから音が消えるまでの音色の変化する時間を調節するレバーです。

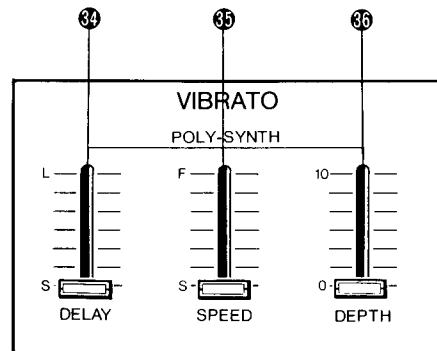
RELEASE TIMEのレバーをL側に上げても、SUSTAINスイッチ⑫がOFFの状態では、鍵盤を離すと音が消えてしまうので思ったような効果は現われません。そこでSUSTAINスイッチ⑫をONにして、SUSTAINレバー②をRELEASE TIMEと同じように上げてください。すると、今度は鍵盤を離してからの変化を聞きとることができます。

以上の変化をまとめると下図のようなエンベロープ曲線が得られます。



- すでに鍵盤を押してエンベロープがスタートしているとき、次に押した他の音程ではエンベロープは変化しません。また離鍵によるリリースタイムは全ての鍵盤が離されたとき、最後に離した音程のタイミングで始まります。

VIBRATO ブロック



ポリシンセ及びストリングスパートにディレイビブラート（音の立上りから少し遅れてビブラートがかかる）をかけることができます。

④ DELAY ディレイ

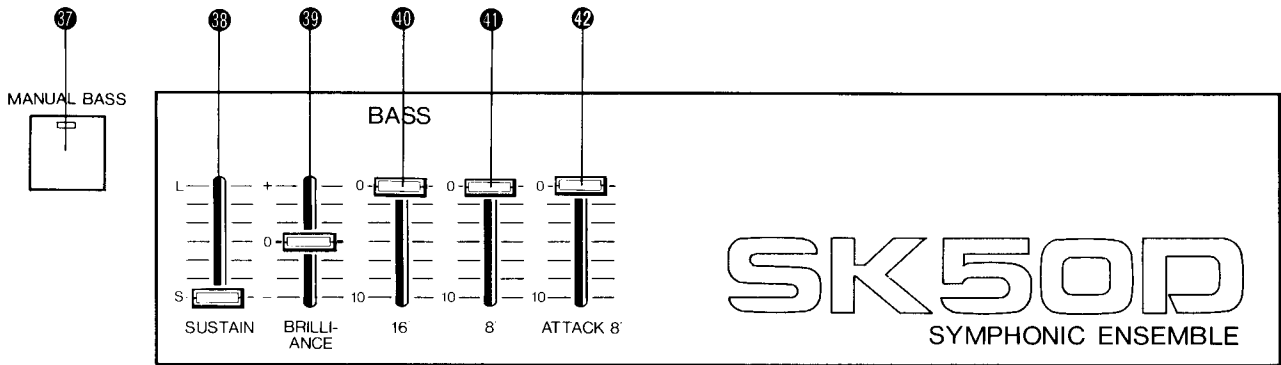
音が出はじめてからビブラートのかかり始めるまでの時間をコントロールします。レバーをL側にするほどビブラートのかかり始めは遅くなります。

⑤ SPEED スピード

ビブラートのスピードをコントロールします。F側にするほど速いビブラートが得られます。

⑥ DEPTH デプス

ビブラートがポリシンセ（ストリングス）音にかかる強さを調節します。



下鍵盤（マニュアルベース音域）またはベースペダル（BP2）を接続してベース演奏ができます。ベースパートは高音優先の単音出力です。MANUAL BASS スイッチを押すと、下鍵盤のマニュアルベース音域（C₁～F₂#）1½オクターフがベース音域になり、G₂～C₆ がローソールガン、ポリシンス（ストリングス）パートになります。

37 MANUAL BASS マニュアルベーススイッチ

下鍵盤の MANUAL BASS 音域でベース演奏をするとき、スイッチを ON します。

- ベースペダルによるベース演奏は、MANUAL BASS スイッチの ON/OFF とは関係なく行なうことができます。ベースペダルを接続して MANUAL BASS スイッチを ON にした場合、ベースペダルと、マニュアルベース音域の両方で演奏できますが、両方のキーが同時に押された場合、両方のキーの最も高いキーの音程が出力されます。

- ソロシンセサイザーパートの MODE を BASS にすると SOLO SYNTHESIZER, BASS パートの両方の音が、ベースペダル、もしくはマニュアルベース音域で演奏できます。

		BASS	SOLO SYNTHESIZER
MANUAL BASS OFF	MODE BASS NORMAL OFF ON	ベースペダルのみ	上鍵盤 C ₃ ～C ₆
MANUAL BASS ON	MODE BASS NORMAL OFF ON	ベースペダル及び マニュアルベース (下鍵盤 C ₁ ～F ₂ #) で高音優先	上鍵盤 C ₃ ～C ₆
MANUAL BASS ON	MODE BASS NORMAL ON OFF	ベースペダル及び マニュアルベース(下鍵盤 C ₁ ～F ₂ #)で高音優先	

38 SUSTAIN サスティーンレバー

ベースパートは離鍵と同時に音が消えてしまいますが、このサスティーンレバーにより余韻をつける（サスティーン効果）ことができます。L 側にするほど余韻が長くなります。

39 BRILLIANCE ブリリアンスレバー

音色を一時的に調節するレバーです。通常は中央位置にしておき、明るい音色にしたいとき + 側に、ソフトな音色にしたいときに - 側にします。

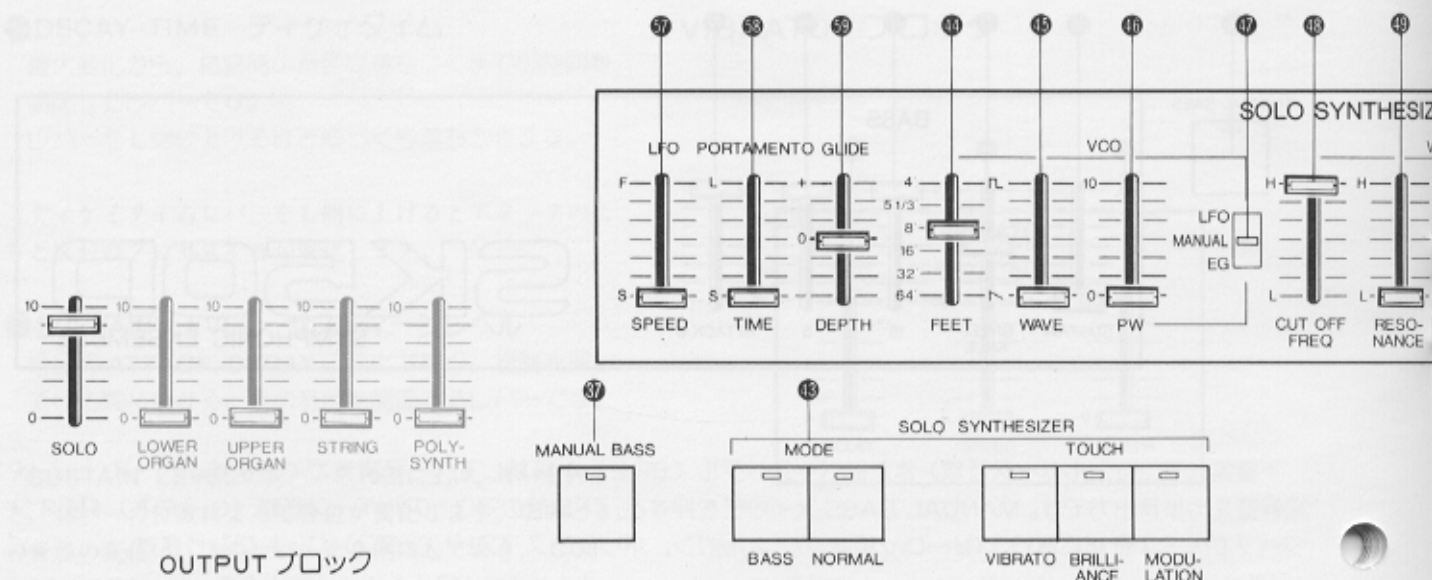
40, 41, 42 16', 8', ATTACK 8' トーンレバー

ベースの音色、音量をコントロールします。ベースパートは OUTPUT ブロックにスプリット出力用のポリリュームがないため、これらのトーンレバーによって音色をコントロールすると同時に、他のパートとの音量のバランスをとります。

ATTACK 8' では音の出はじめにアクセントをつけ、パーカッシブな音色をつくることができます。

- ATTACK 8' の音にはサスティーン効果は得られません。ベースギターのような音色をつくる場合、16', 8' の音にサスティーンをかけ、ATTACK 8' で弦をはじく音色を加えます。

- ベースパートを演奏しないときは、トーンレバーは 0（上側）にしてください。



OUTPUTブロック

ソロシンセサイザーは、音程、音色及び音量のコントロールが、電圧を媒体として行なわれる VCO、VCF 及び VCA により構成されています。ソロシンセサイザーを演奏するには、始めにこれらのブロックを構成するコントロールを操作して音をつくる必要があります。実際に音を出しながら動作を確認するために、各コントロールを上図のようにセッティングしてください。

④③ MODE モードスイッチ

ソロシンセサイザーパートを演奏する場合、MODE スイッチで **NORMAL** または **BASS** を選びます。

NORMAL …… 上鍵盤の高音側ソロシンセサイザー発音域 $C_3 \sim C_6$ (3オクターブ) において、単音、高音優先で出力が得られます。

BASS …… リアパネルの PEDALS 端子にベースペダルを接続してペダルによる演奏ができます。なお、**BASS** モード時にベースペダルで発音する音程は、ソロシンセサイザーの発音域の $C_3 \sim C_4$ (1オクターブ) に相当します。

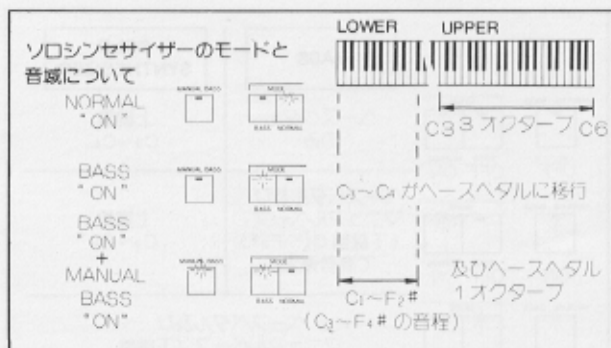
●高音優先について

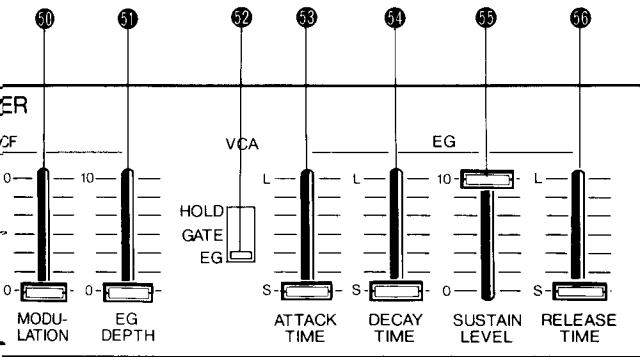
ソロシンセサイザーパートは高音優先の単音シンセサイザーです。複数のキーを押したとき、最も高い音程の音が出力され、更に高い音程のキーを押すと、音程はそのキーに移行します。ただし、すでに7音分のキーが押されているときは更に高いキーを押しても音程は移行しません。

④⑦ MANUAL BASS マニュアルベーススイッチ

MODE スイッチ ④③ が **BASS** の状態で **MANUAL BASS** スイッチを **ON** にするとソロシンセサイザーパートは、下鍵盤低音側のマニュアルベース音域 $C_1 \sim F_2\#$ に移行し、このときの音程はソロシンセサイザー発音域 $C_3 \sim F_4\#$ に相当します。

また、ベースペダルを接続すると、マニュアルベース音域、ベースペダルの両方で演奏でき、このとき両方の鍵盤の高音優先で出力されます。





● **MANUAL BASS** スイッチを ON したとき、鍵盤のマニュアルベース音域は ソロシンセサイザー 及び **BASS** パート専用のキーボードとなり、ローオルガン、ポリシンス (ストリングス) はこの領域内で演奏できません。

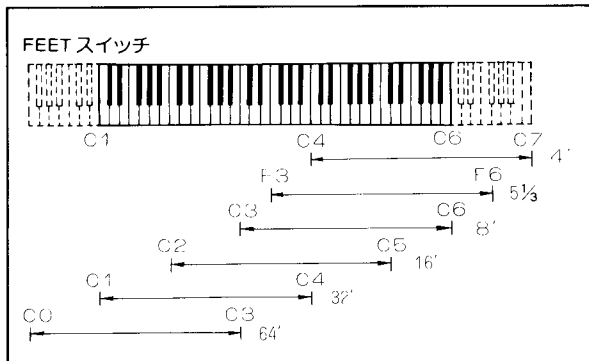
■ VCO (Voltage Controlled Oscillator)

オルガンの場合、音色はトーンレバーで倍音を加えていくことによってつくられますが、シンセサイザーの場合は反対に多くの倍音を持つ特殊な波形から、倍音の一部を削りとることにより音色をつくります。

VCO は鍵盤の音程に対応する電圧(CONTROL VOLT)と言い、リアーパネルに出力されている)から、多くの倍音を持った音源をつくる (発振する) 働きをします。モードスイッチ⑬をノーマルにしてください。

⑭ FEET スイッチ

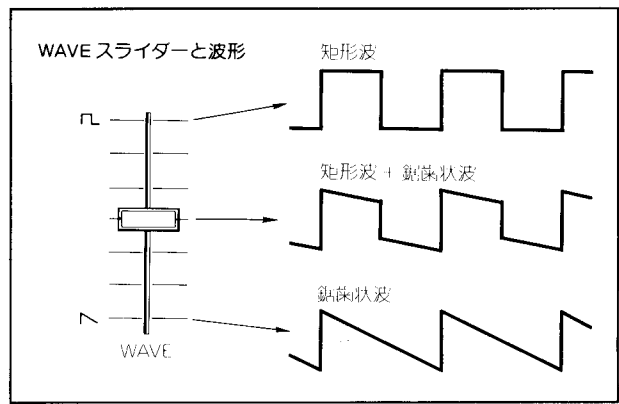
演奏する音域を選びます。8' のとき標準的な音域 C₃ ~ C₆ (NORMAL), C₃ ~ F₄ # (BASS) をカバーし、5 1/3' のとき5度、4' のとき1オクターブ上り、反対に、16', 32', 64' とフィートが増えるごとに1オクターブつつ下がります。



⑮ WAVE 波形レバー

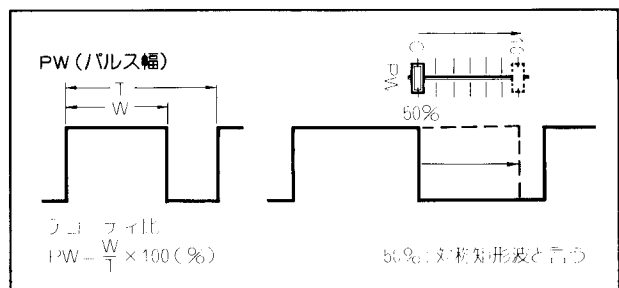
波形を選ぶレバーです。レバーが **L** 側にあるとき、鋸歯状波が出力され、**R** 側にあるとき矩形波が出力されます。レバーが中間にあるときは鋸歯状波と矩形波のミキシングされた波形が出力されます。

このレバーはいま **L** 側にありますが、レバーを動かしながら鍵盤を弾き、音色の変化する様子確かめてください。VCF, VCA は特にコントロールされていないので、いま聴いている音は VCO で発振したそのままの波形による音色です。



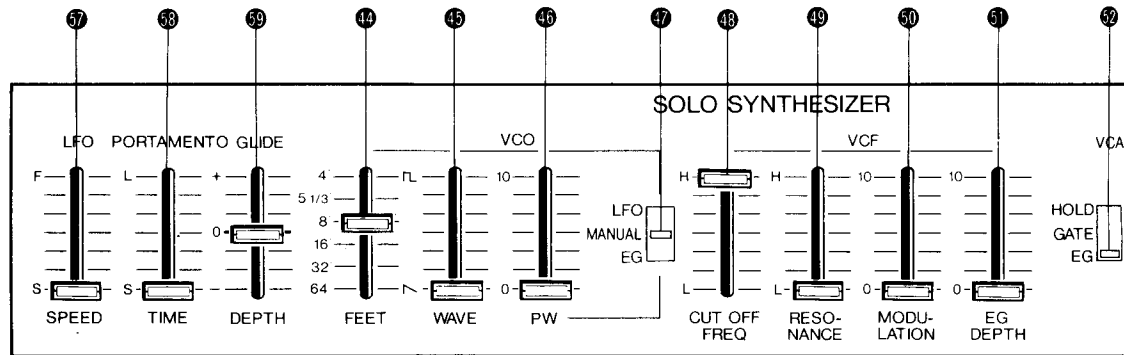
⑯ PW Pulse Width パルス幅レバー

WAVE レバー⑮でミキシングされる矩形波のパルス幅を変えることにより音源の音色を特徴づけます。レバーが **0 (50%)** のとき上下のパルス幅の等しい対称矩形波となり、**10 (85%)** 側にするほど上下のパルス幅の比が大きくなります。



⑰ PW パルス幅変調スイッチ

矩形波のパルス幅を **LFO** または **EG** で変調することができます。スイッチが **MANUAL** のときパルス幅は **PW** レバー⑯で設定した一定の値となり、**LFO** にするとパルス幅は **LFO** レバー⑰で決めたスピードで周期的に変化し、**EG** にするとパルス幅はエンベロープジェネレーターで設定したエンベロープに従い変化します。**LFO** 及び **EG** の時の変調の深さは **PW** レバー⑯でコントロールされます。



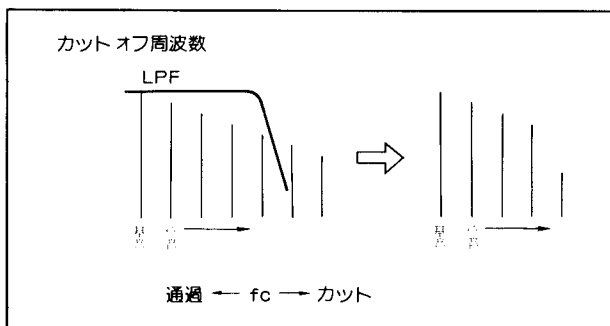
■ VCF (Voltage Controlled Filter)

VCO でつくられた波形は VCF に入力されます。VCF はフィルターの作用により波形に含まれる倍音の一部を取り除いたり、一部の倍音を強調して、音源の倍音構成を変え、音色をコントロールします。

⑩ CUT OFF FREQ カットオフ周波数

フィルターの通過部分とカットする部分との境いめの周波数をカットオフ周波数と言い、このカットオフ周波数より低い倍音成分が VCF を通過します。

CUT OFF FREQ レバーを H 側にすると、より高次の倍音が通過するため、音色は明るく、また、硬くなります。反対に、レバーを L 側にすると低い高次の倍音からカットされ、音色はソフトになります。レバーを L 側いっぱいまで下げると、基音までカットされ音が出なくなることがあります。



CUT OFF FREQ レバーはシンセサイザーで音づくりをするとき、基本となる音色を決める最も重要なコントロールの一つです。いまこのレバーは H 側にあるため音源波形に含まれる倍音はほとんど通過しています。このレバーを徐々に L 側に下げ、音色の変化する様子を確認してください。つぎに進むときはレバーを中央ぐらいにしてください。

⑨ RESONANCE レゾナンス

フィルターのカットオフ周波数付近の倍音を強調し、音色を特徴づける働きをします。

RESONANCE レバーを H 側に上げて、音色の変化する様子を確認してください。つぎに進むときは **CUT OFF FREQ** レバー同様、中央付近にセットしてください。

⑩ MODULATION モジュレーション

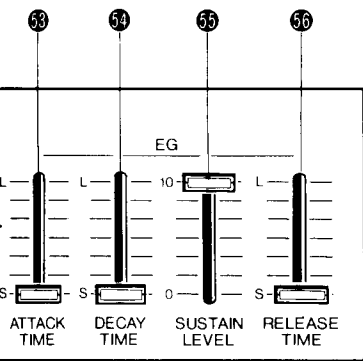
カットオフ周波数を LFO で変調し、周期的に音色を変化させる働きをします。MODULATION レバーを 10 側に上げるほどより大きな変化が得られます。

変化するスピードは LFO レバー⑦により決まります。MODULATION レバーを上げ、LFO レバーをコントロールして動作を確認してください。この効果をふつうワウ・ワウと言っています。MODULATION レバーは 0 に戻して次に進みます。

⑪ EG DEPTH EG デプス

鍵盤を押して音が出はじめから、鍵盤を離して音が消えるまでの音色に変化をつける働きをします。変化する様子は EG ブロックのレバーのセッティングにより決まります。

いま、EG のセッティングは SUSTAIN LEVEL レバーだけが上った状態です。このため、EG DEPTH を 10 方向に上げるに依り、カットオフ周波数が高くなり、音色の変化が大きくなるはずですが、EG DEPTH を 10 側いっぱいにしたときの音色は、CUT OFF FREQ レバー⑩を H 側いっぱいにしたときと同じになります。つぎに、VCA 及び EG のコントロールについて説明します。いったん、EG DEPTH レバーは 0 に戻し、EG の働きを理解したあとで EG DEPTH レバーを調節してください。



■ EG (Envelope Generator)

エンベロープジェネレーターは鍵盤を押したとき、離れたときを示すトリガー信号により起動します。EG ブロックで作られたエンベロープは、VCA スイッチ、VCF の EG DEPTH レバー及び VCO ブロックのパルス変調スイッチ部に対して加えられ、それぞれのブロックに時間的な変化を与えます。

53 ATTACK TIME アタックタイム

鍵盤を押した瞬間から、最大変化になるまでの時間を調節します。L 方向にするほどゆるやかに立上ります。

54 DECAY TIME ディケイタイム

最大変化から、減衰して SUSTAIN LEVEL レバー 55 で設定した状態になるまでの時間を調節します。L 方向にするほどゆるやかに減衰します。

● SUSTAIN LEVEL レバー 55 が 10 側いっぱいになっている場合、DECAY TIME による効果は現われません。

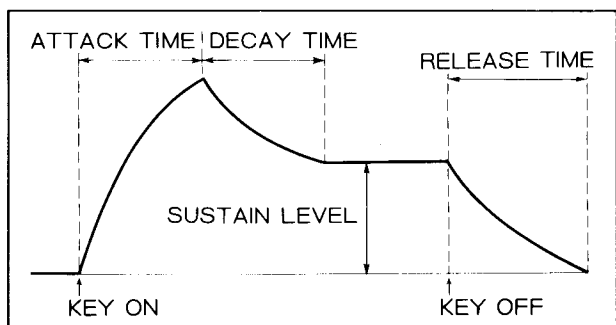
55 SUSTAIN LEVEL

ATTACK, DECAY TIME による変化が終わり、鍵盤を押している間だけ持続する安定した状態のレベルを調節します。10 方向にスライドするほど SUSTAIN LEVEL (持続レベル) は大きくなります。

56 RELEASE TIME

鍵盤を離してから音が消えるまでの時間、余韻の長さを調節します。L 方向にするほどゆるやかに変化します。

EG の四つのコントロールを ADSR と言うことがあります。実際に ADSR をコントロールして音量の変化の様子を確かめてください。ADSR の各レバーのコントロールによって下図の様子変化が現われます。この変化をエンベロープカーブと言います。



■ VCA (Voltage Controlled Amplifier)

一般的に楽器などの音は、音量も音色も、音が出はじめてから消えるまで一定したものではなく、さまざまに変化しています。こうした時間的な変化を電氣的につくる働きをするのがエンベロープジェネレーター、EG です。

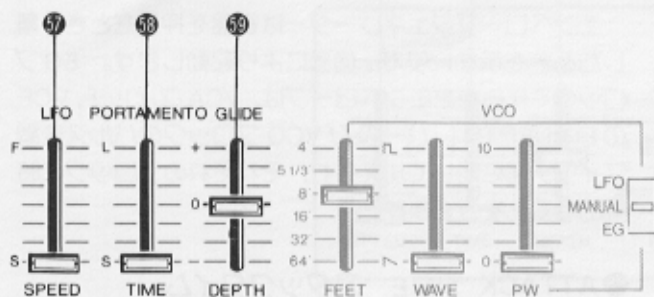
VCF で音色をコントロールされた音の信号は VCA に加わります。VCA は加える電圧値の大小で増幅度が変化するアンプです。この電圧として EG でセッティングしたエンベロープ電圧を使用することにより、音量に時間的な変化をつけるのが VCA の働きです。

52 VCA スイッチ

VCA に加えるコントロール電圧を切り換えるスイッチです。このスイッチを HOLD にすると鍵盤の ON/OFF にかかわらず音が出ます。GATE にすると VCA の制御電圧として鍵盤の ON/OFF 信号、トリガーが加わり、音は鍵盤を押している間一定のレベルで出力されます。スイッチを EG にすると VCA はエンベロープジェネレーターの ADSR レバーのセッティングに従い音を出力します。

VCA スイッチはいま EG になっており、EG の SUSTAIN LEVEL レバー 55 が 10 まで上っているため、音は鍵盤の ON/OFF に従い出力されます。この状態は VCA スイッチを GATE にした場合と同じです。EG に戻して次に進みます。

その他のコントロール



⑤⑦ LFO 低周波発振器

LFOはVCO、VCFブロックを変調し、音色に周期的な変化を与える働きをします。LFOレバーをF側にするとスピードは速くなります。

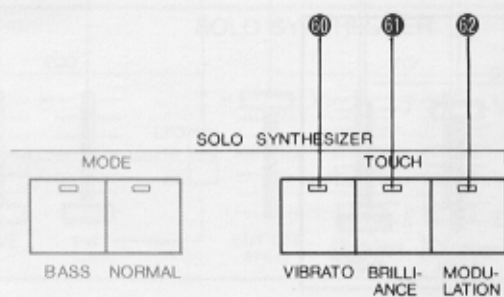
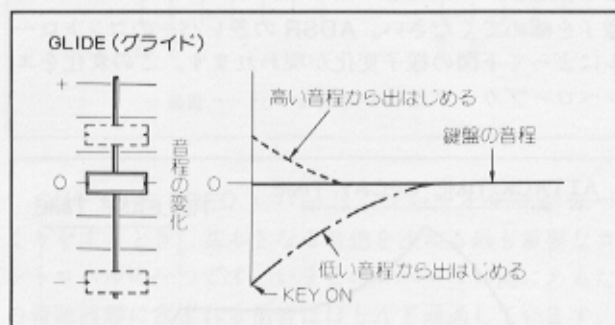
⑤⑧ PORTAMENTO ポルタメント

ポルタメントとは、音程がはじめの音程から次の音程になめらかに移る効果です。このレバーはその移動の速さを調節します。レバーをL側にするとゆるやかに音程が移ります。

- リアパネルにフットスイッチ（オプション）を接続するとポルタメントのON/OFFをコントロールすることができます。このときパネルのポルタメントレバーはL側にセットしておきます。

⑤⑨ GLIDE グライド

グライドとは音の出はじめの音程に変化をつけることを言います。GLIDEレバーが中央（クリックストップ位置）にあるとき音程は変化せず、+側に行くと高い音程から、-側に行くと低い音程から音が出はじめます。



TOUCH タッチコントロールスイッチ

タッチコントロールスイッチは、鍵盤を押したときの押す強さによって音色などを微妙にコントロールするエフェクターです。スイッチを押すとそれぞれの効果が現われます。

⑥⑩ VIBRATO ビブラート

タッチの強さによりビブラートがかけられます。ビブラートの速さはLFOレバー⑤⑦により決まります。

⑥⑪ BRILLIANCE ブリリアンス

音色が明るくなります。VCFのカットオフ周波数を少し高くすることにより得られる効果です。

⑥⑫ MODULATION モジュレーション

ワウ・ワウ効果が生じます。VCFブロックのMODULATIONレバーを上げる操作と同じ効果です。

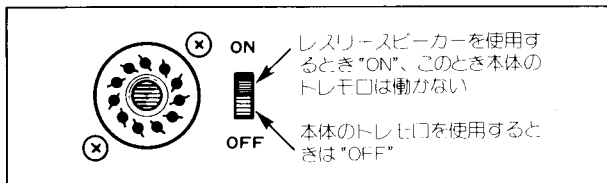
- ブリリアンス、モジュレーションの効果はVCFブロックのカットオフ周波数に対して働きます。このため、CUT OFF FRFQレバー⑥⑩、RESONANCEレバー⑥⑨のセッティングの状態によってタッチコントロールの効果の現われ方が異なります。CUT OFF FREQレバーをH側にかなり上げた状態では、タッチコントロール効果はあまり目立たなくなります。

トレモロとアンサンブル効果は、アッパーオルガンパート、ローオルガンパート及びポリシンス(ストリングス)パートの MIXED 出力に対してかかります。このうちトレモロは EXT TONECABINET 端子に接続したレスリースピーカーのロータリースピーカーの回転の制御または本体の電子トレモロを制御します。本体でトレモロを使用する場合、トレモロとアンサンブルとはアンサンブル優先となっているため、トレモロとアンサンブルを同時に使用することはできません。

■ TREMOLO トレモロ

トレモロ効果、及びリアパネルの EXT TONECABINET に接続したレスリースピーカーをコントロールします。

レスリースピーカーを使用せず SK50D でトレモロをかけるときはリアパネルの EXT TONECABINET スイッチを OFF にしてください。このスイッチを ON にすると、SK50D 内部ではトレモロはかからず、トレモロの各コントロールはレスリースピーカーのコントロールだけを行います。



⑧ SPEED スピードスイッチ

トレモロのスピードを電子的に変化させるスイッチです。スイッチを押しインジケータが点灯すると、スピードは徐々に速くなり、インジケータが点灯しているときスイッチを押すとインジケータは消えスピードは徐々にゆるやかになります。

- EXT TONECABINET 端子に接続したレスリースピーカーの回転スピードのファースト/スローのリモートコントロールができます。

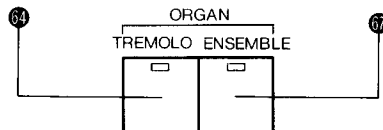
⑥ ORGAN (アッパーオルガン)

⑥ ORGAN (ロー), ⑥ POLY-SYNTH トレモロスイッチ

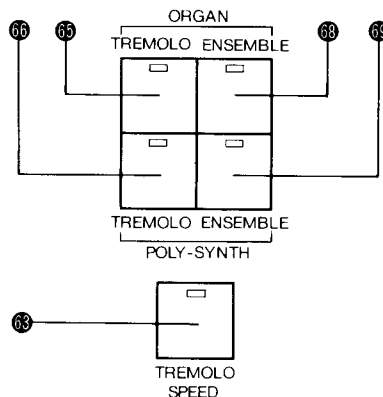
スイッチを押し、インジケータが点灯するとトレモロがかかります。もう一度押すと解除されます。

- アンサンブルスイッチ ⑦, ⑧ または ⑨ のうちひとつでも ON になっているとトレモロスイッチを ON しても、トレモロではなくアンサンブル効果がかかります。ただしリアパネルの EXT TONECABINET を ON にして EXT TONECABINET 端子にレスリースピーカーを接続したときは、レスリースピーカーの ON/OFF はトレモロスイッチの表示どおり制御されます。

上鍵盤部



下鍵盤部



■ ENSEMBLE アンサンブル

アンサンブル効果をかけると電子ティレイにより、重厚なサウンドが得られます。

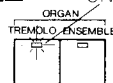
⑦ ORGAN (アッパーオルガン)

⑧ ORGAN (ロー), ⑨ POLY-SYNTH アンサンブルスイッチ

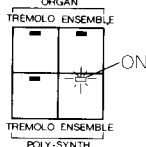
スイッチを押しインジケータが点灯すると、アンサンブル効果がかかります。もう一度押すと解除されます。

アンサンブル優先について

■ 上鍵盤

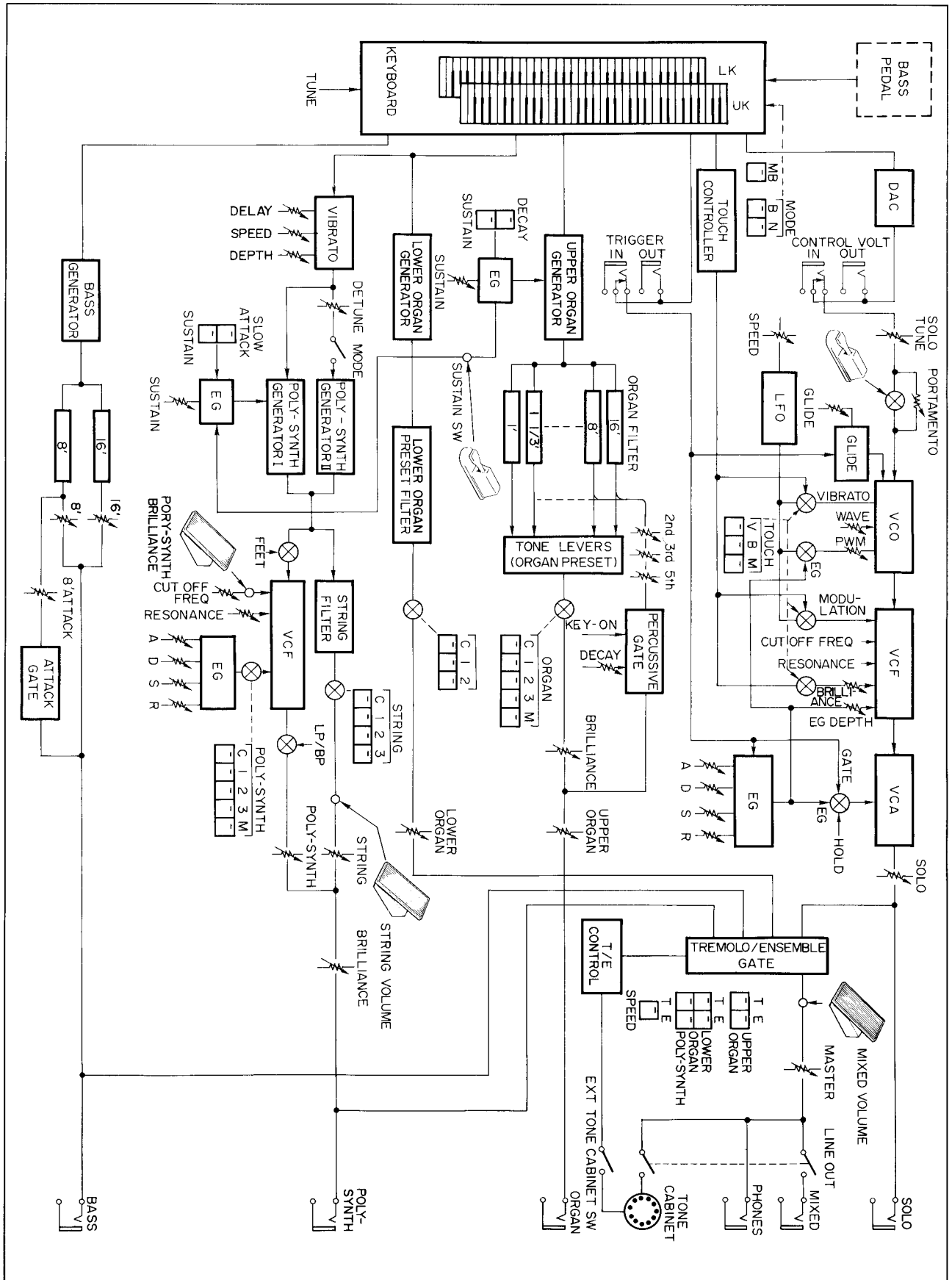


■ 下鍵盤



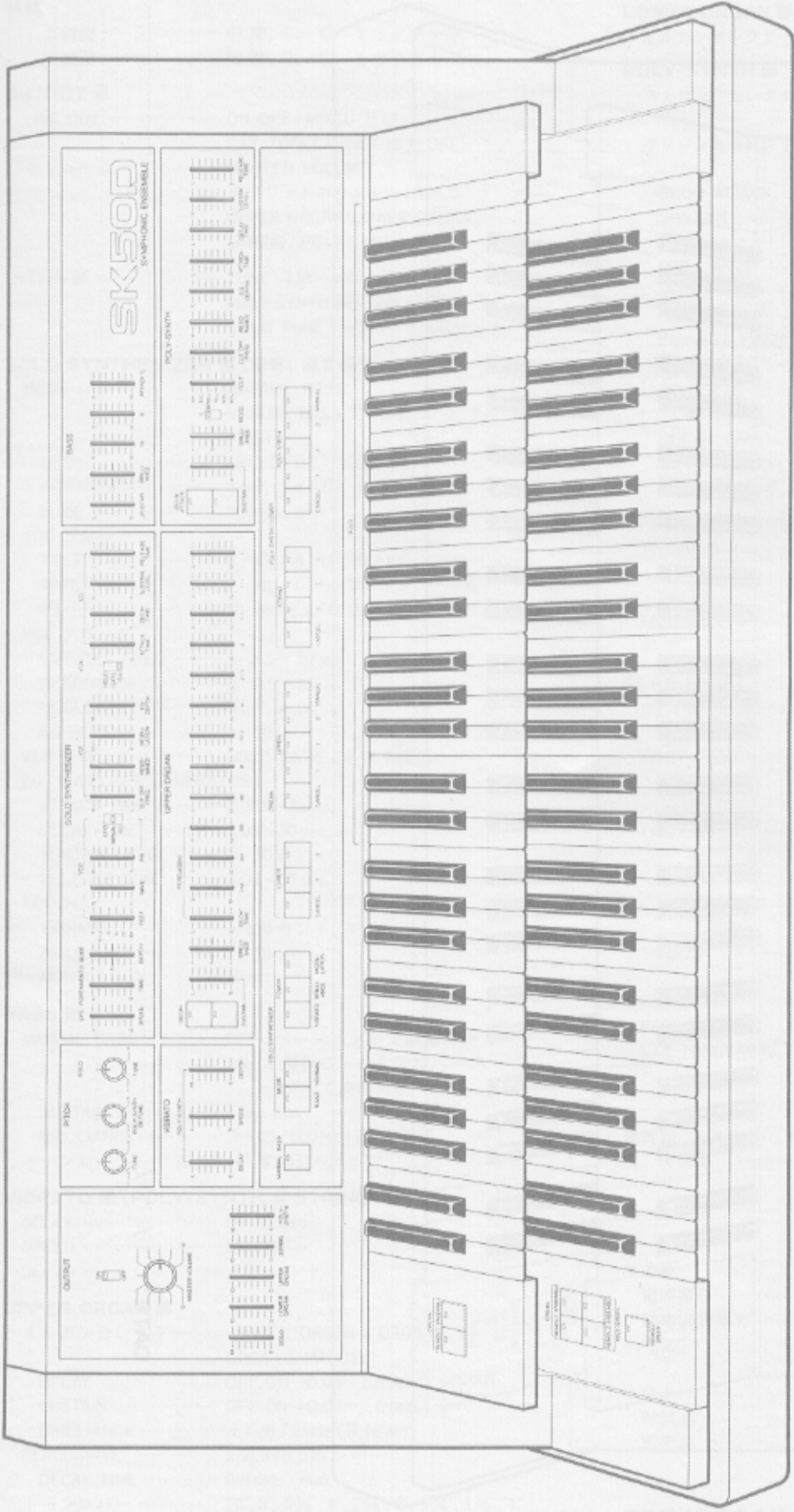
この場合、ポリシンスのアンサンブルスイッチが ON になっているため、アッパーオルガンにはトレモロではなくアンサンブル効果がかかります。アッパーオルガンにトレモロをかけたときはポリシンスのアンサンブルスイッチを OFF にする。

ブロックダイアグラム

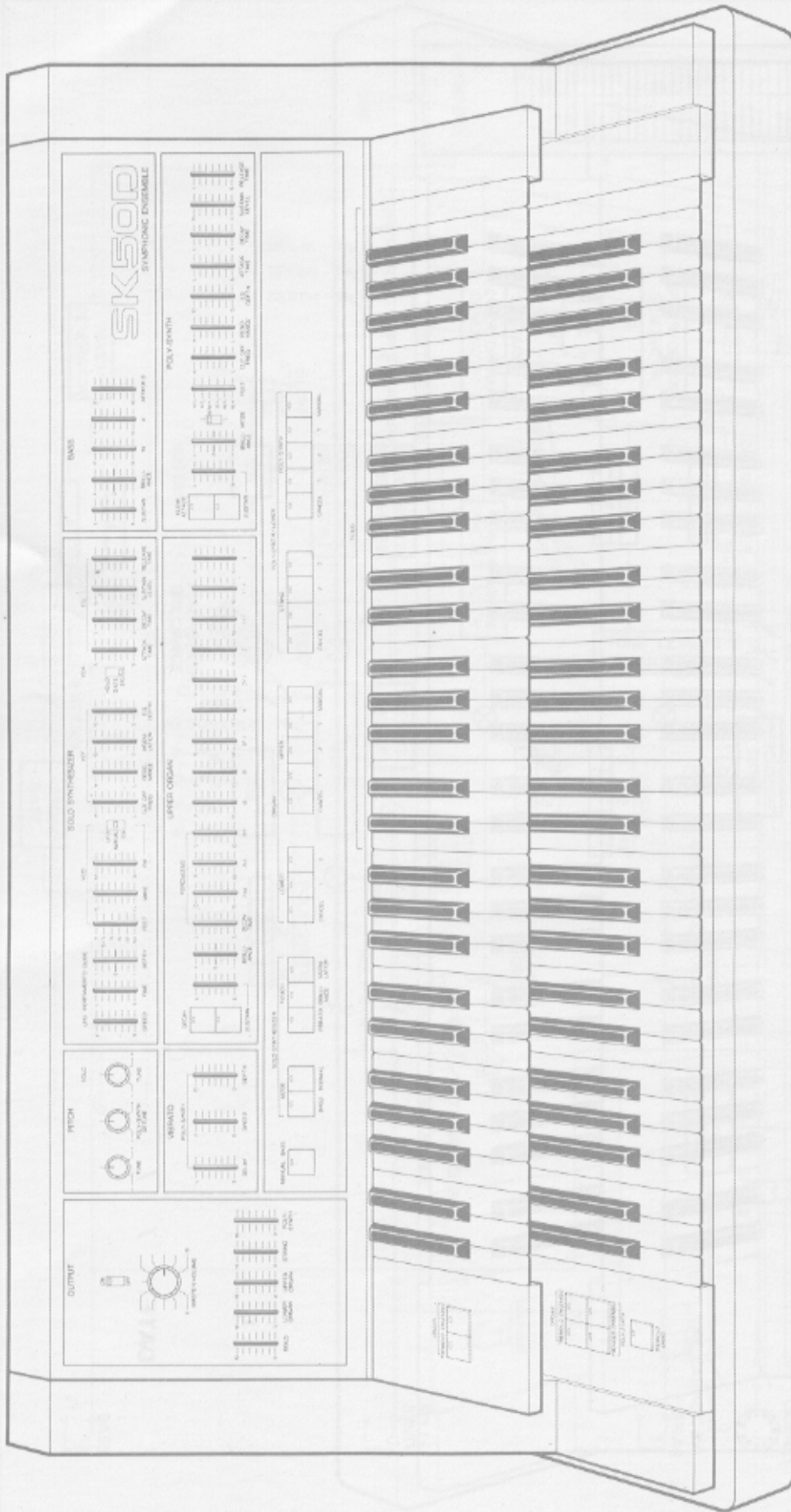


SOUND MEMO

SOUND MEMO



DATE: / /



DATE: / /

参考仕様

鍵盤

上鍵盤 61 鍵、C₁~C₆ 5 オクターブ
 下鍵盤 61 鍵、C₁~C₆ 5 オクターブ

OUTPUT 部

LINE OUT ON, OFF ; MIXED 及び
 EXT TONECABINET 出力 OFF
 ボリューム MASTER VOLUME
 スプリットボリューム: SOLO /
 UPPER ORGAN/LOWER ORGAN /
 STRING / POLY-SYNTH

PITCH 部

TUNE: 438~450 Hz
 POLY-SYNTH DETUNE: ± 20 /₂₇ セント
 SOLO TUNE: -500~+700 セント

SOLO SYNTHESIZER 部 (単音, 高音優先)

MODE NORMAL, BASS
 MANUAL BASS で下鍵盤 C₁~F₂ #
 に移行
 LFO SPEED: 0.1~100 Hz
 PORTAMENTO 3 sec max. (C₃~C₆)
 GLIDE 70 msec max.
 VCO ブロック
 FEET 4', 5 $\frac{1}{3}$ ', 8', 16', 32', 64'
 WAVE \curvearrowright → \curvearrowleft , レバーでミキシング可能
 PW 50~85%, LFO, MANUAL, EG 切り換え
 VCO ブロック
 CUT OFF FREQ レンジ: 10 OCT
 RESONANCE Q: 0.5~10
 MODULATION 3 OCT. / max.
 EG DEPTH 0~10 OCT.
 VCA ブロック HOLD, GATE, EG 切り換え
 EG (ENVELOPE GENERATOR)
 ATTACK TIME 0.003~3 sec.
 DECAY TIME 0.03~30 sec.
 SUSTAIN LEVEL 0~10 V
 RELEASE TIME 0.03~30 sec.
 TOUCH
 VIBRATO +120 セント / 8', A₃
 BRILLIANCE 7~10 OCT.
 MODULATION 10 OCT.

BASS 部

MANUAL BASS OFF: ペースペダルで演奏可能
 ON: 下鍵盤 C₁~F₂ # 及びベース
 ペダルで演奏可能
 SUSTAIN 2 sec max.
 BRILLIANCE ± 5 dB / 500 Hz (正弦波)
 トーンレバー 16', 8', ATTACK 8'

VIBRATO 部 (POLY-SYNTH & STRING)

DELAY 0~3.2 sec.
 SPEED 5~7 Hz
 DEPTH ± 30 セント

UPPER ORGAN 部

オルガンセレクター CANCEL, ORGAN 1, ORGAN 2,
 ORGAN 3, MANUAL
 DECAY OFF, ON → 0.03~1.6 sec. } SUSTAIN
 SUSTAIN OFF, ON → 0.03~1.6 sec. } レバー
 BRILLIANCE ± 7 dB / 5 kHz (正弦波)
 PERCUSSIVE 2nd, 3rd, 5th レバー
 DECAY TIME 0.8 sec. / max.
 トーンレバー 16', 8', 5 $\frac{1}{3}$ ', 4', 2 $\frac{2}{3}$ ', 2', 1 $\frac{3}{4}$ ', 1 $\frac{1}{2}$ ', 1'

LOWER ORGAN 部

オルガンセレクター CANCEL, ORGAN 1, ORGAN 2

POLY-SYNTH 部

ストリングセレクター CANCEL, STRING 1, STRING 2,
 STRING 3
 ポリシンスセレクター CANCEL, POLY-SYNTH 1, POLY-SYNTH 2,
 POLY-SYNTH 3, MANUAL
 SLOW ATTACK OFF; 3 msec. ON; 80 msec.
 SUSTAIN SUSTAIN スイッチ: ON, OFF
 SUSTAIN レバー: 0.03~1.6 sec.
 BRILLIANCE ± 12 dB / 5 kHz (正弦波)
 MODE I; 音源 1 系列, II; 音源 1, 2 系列
 FEET 4', 8', BP 8', 8', 16', 16', 16'
 CUT OFF FREQ 10 OCT
 RESONANCE Q: 0.5~10
 EG DEPTH 10 OCT
 ATTACK TIME 0.003~3 sec.
 DECAY TIME 0.03~30 sec.
 SUSTAIN LEVEL 0~8.5 V
 RELEASE TIME 0.03~30 sec.

TREMOLO / ENSEMBLE 部 (ENSEMBLE 優先)

TREMOLO UPPER ORGAN, LOWER ORGAN,
 POLY-SYNTH スイッチ
 SPEED OFF; 0.64 Hz, ON; 6.4 Hz
 ENSEMBLE UPPER ORGAN, LOWER ORGAN,
 POLY-SYNTH スイッチ

REAR PANEL

OUTPUT MIXED: 600 Ω , -10 dBm
 ORGAN, POLY-SYNTH, SOLO, BASS
 FOOT CONT フットコントローラーを接続
 MIXED VOLUME, STRING VOLUME,
 POLY-SYNTH BRILLIANCE
 FOOT SW フットスイッチを接続
 SUSTAIN (ORGAN, POLY-SYNTH)
 PORTAMENTO (SOLO SYNTHESIZER)
 CONTROL VOLT IN: 0.25~2 V
 OUT: 0.19~3 V
 TRIGGER IN: POSITIVE ON E → +15 V
 OUT: POSITIVE ON E → +15 V
 KEY CODE TTL レベル, キーコードデータを出力
 PEDALS ペースペダルを接続
 EXT TONECABINET ON; LESLIE, OFF; 電子トレモロ
 11 pin ソケット: LESLIE #415,
 715, 815 相当品接続可能

発音数 (SOLO SYNTHESIZER 部の MODE により異なる)

上鍵盤 NORMAL: OFF; 7 音
 NORMAL: ON; 7 音 + 1 音
 下鍵盤 BASS: OFF; 7 音
 BASS: ON; 7 音 + 1 音

その他

電源電圧 100V, 50/60 Hz
 定格消費電力 50 W
 寸法 1128(W) × 237(H) × 642(D) mm
 (脚収納時)
 仕上げ ビックポルトローズ木目仕様
 付属品 FC-3A フットコントローラー
 別売品 FC-4 フットスイッチ
 BP2 ペースペダル

※仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

サービスについて

●保証

SK50Dの保証期間は、保証書によりご購入から1ヵ年です。(現金、ローン、月賦などによる区別はございません。) また保証は日本国内にてのみ有効いたします。

●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げ年月日、販売店名などが必ず記入されている事を必ずご確認ください。無記入の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。

●保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに、ご購入の日から向う1ヵ年間の無償サービスをお約束申しあげますが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合は、お求めになられた販売店あるいは、日本楽器支店の電音サービス係までご持参頂きますと技術者が修理、調整致します。この際、必ず保証書をご提示ください。お求めの販売店から遠方に移転される場合は、事前に弊社支店までご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申しあげますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

●保証期間後のサービス

満1ヵ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。

そのほかご不明の点などございましたら、下記ヤマハサービス網までお問い合わせください。

●サービス網

- | | | | |
|--------|---------|-----------------|-----------------------------------|
| ●東京支店 | 電音サービス係 | ☎(03) 572-3111 | 東京都中央区銀座7-9-18パールビル内 |
| ●横浜支店 | 電音サービス係 | ☎(045) 212-4852 | 横浜市中区本町6-61-1 |
| ●千葉支店 | 電音サービス係 | ☎(0472) 47-6611 | 千葉市千葉港2-1千葉中央コミュニティセンター内 |
| ●関東支店 | 電音サービス係 | ☎(0273) 27-3366 | 群馬県高崎市歌川町8番地/高崎センター内 |
| ●大阪支店 | 電音サービス係 | ☎(06) 877-5151 | 大阪府吹田市新芦屋下1-16 |
| ●神戸支店 | 電音サービス係 | ☎(078) 232-1111 | 神戸市中央区浜辺通6丁目1-36 |
| ●四国支店 | 電音サービス係 | ☎(0878) 33-2233 | 高松市西宝町2丁目6-44 |
| ●名古屋支店 | 電音サービス係 | ☎(052) 231-2432 | 名古屋市中区錦1-18-28 |
| ●北陸支店 | 電音サービス係 | ☎(0762) 43-5341 | 石川県金沢市泉本町7-7 |
| ●九州支店 | 電音サービス係 | ☎(092) 472-2151 | 福岡市博多区博多駅前2-11-4 |
| ●北海道支店 | 電音サービス係 | ☎(011) 512-6111 | 札幌市中央区南10条西1丁目ヤマハセンター内 |
| ●仙台支店 | 電音サービス係 | ☎(0222) 95-6111 | 仙台市原町南目薬師堂北2-1 |
| ●広島支店 | 電音サービス係 | ☎(08287) 4-3787 | 広島市安佐南区祇園町西原2205-3 |
| ●浜松支店 | 電音サービス係 | ☎(0534) 56-9211 | 浜松市東伊場2丁目14-1 エレクトーンステレオサービスセンター内 |

日本楽器製造株式会社

- 本社・工場 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL. (0534)65-1111
- 東京支店 〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内
TEL. (03) 572-3111
- 銀座店 〒104 東京都中央区銀座7-9-14
TEL. (03) 572-3131
- 渋谷店 〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-7
TEL. (03) 476-5441
- 池袋店 〒171 東京都豊島区南池袋1-24-2
TEL. (03) 981-5271
- 池袋東ショップ 〒170 東京都豊島区東池袋1-30-1/
プランズウィックススポーツガーデン内
TEL. (03) 983-9914
- 横浜支店 〒231 横浜市中区本町6-61-1
TEL. (045)212-3111
- 横浜店 〒220 横浜西区南幸2-15-13
TEL. (045)311-1201
- 千葉支店 〒280 千葉市千葉港2-1/千葉コミュニティセンター内
TEL. (0472)47-6611
- 関東支店 〒370 高崎市歌川町8番地/高崎センター内
TEL. (0273)27-3366
- 大阪支店 〒564 吹田市新芦屋下1-16
TEL. (06) 877-5151
- 心斎橋店 〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39
TEL. (06) 211-8331
- 梅田店 〒530 大阪市北区梅田1-3-1/大阪駅前第1ビル内
TEL. (06) 345-4731
- 神戸支店 〒651 神戸市灘合区浜辺通り6丁目1の36
TEL. (078)232-1111
- 神戸店 〒650 神戸市生田区元町通2-188
TEL. (078)321-1191
- 四国支店 〒760 高松市西宝町2丁目6-44
TEL. (0878)33-2233
- 四国店 〒760 高松市丸亀町8-7
TEL. (0878)51-7777
- 名古屋支店 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL. (052)201-5141
- 北陸支店 〒921 金沢市泉本町7-7
TEL. (0762)43-6111
- 九州支店 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL. (092)472-2151
- 福岡店 〒810 福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内
TEL. (092)721-7621
- 小倉店 〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1
TEL. (093)531-4331
- 北海道支店 〒064 札幌市中央区南十条西1丁目
ヤマハセンター
TEL. (011)512-6111
- 仙台支店 〒983 仙台市原町南目薬師堂北2-1
TEL. (0222)95-6111
- 仙台店 〒980 仙台市一番町2-6-5
TEL. (0222)27-8511
- 広島支店 〒730 広島市紙屋町1-1-18
TEL. (0822)48-4511
- 浜松支店 〒430 浜松市田町32
TEL. (0534)54-4116
- 浜松店 〒430 浜松市鍛冶町122
TEL. (0534)54-4111

